

328-338

328-338

伯爵大隈重信閣下序
ドクトル、オズ、
フ井ロソフイー、
三上正毅先生譯述

アダム
スミス
富國論
全

東京 日進堂藏版

45. 8. 92

序

我國現在の富を以て是を歐米諸國に比すれば其相距る尙ほ甚だ遠しと雖も其前途の希望に至ては實に春海の洋々たるが如きものありと云はざるべからず。國土の面積狭小にして天與の財源に限りありと雖も其國民の勤勉にして技巧に富めるは是を歐米の國民に比して必ずしも遜色あるを見ず。而して我國が坤輿の上に占むる地位の優勝なるに至ては比類甚だ罕なり。米國太平洋岸の開発巴奈馬運河の開通支那の覺醒露西亞の進歩と共に將來我が農商工業上の智識の一層進歩普及するに至らば我國富の如何なる程度に迄發達すべきか殆んど豫測すべからざるものあり

て存す。此時に當りて我國民が財政經濟及び商業上の政策に關して健全なる思想を有せんことは極めて緊要のこととなりと云はざるべからず。

されば吾輩は是等の問題に關する著書翻譯の盛に世に現はれ一般に研究討論せらるゝに至らんことを切望するものにして吾輩が機會を得る毎に是に關する卑見を陳述して敢て辭せざる所以のもの亦た是がために外ならず。アダム、スミスは當時に於ける經濟思想を淘汰して經濟學の基礎を確立し十八世紀末より十九世紀に亘り經濟學の大宗として理論上及政策上久しく歐米の社會を風靡したるは吾輩の絮説を要せざる可し。爾來時世の進運と社會事情の

富國論
著者
二

差異とは自ら學說の變遷を誘致し夫の獨逸に於て發展せる國民的及史的經濟思想の如きアダム、スミスの學風に反抗して興起し其系統全く相容れざるが如き觀なきに非ずと雖も若し仔細に之を檢覈すれば獨逸に於ける經濟學の組織も精粗の差こそあれ其淵源に至てはアダム、スミスに負ふ所少からざるは蓋し識者の首肯する所なるべきを疑はず。我邦に於てもアダム、スミスの學風が維新以降經濟思想の發展に大に與て力あるは何人も認識する所なるべし。勿論アダム、スミスの時代と今日とは社會の事情全く相同しからず。經濟學說も亦幾多の變遷を免れず、必ずしも個人的自由放任の主義を以て金科玉條視すること能はずと雖

も富國論が今日も尙ほ經濟學界に於ける光輝ある古典として健全なる感化と貴重なる暗示を與へ讀者をして大に啓發する所あらしむべきは疑を容れざるなり。
三上正毅氏の譯文を見るに明快適切にして精細深遠なる原意を傳ふるに於て畧ぼ遺憾なきに似たり。我國の讀書社界は氏に負ふ所尠ならずと謂ふべし。同氏の請求に依り此處に一言を序し併せて是を江湖に推薦するものなり。

明治四十三年七月

伯爵 大隈重信

序

富國論は蓋し萬世不朽の名著なり。其始めて世に現はれてより、春風秋雨茲に百三十年、其間社會の事物悉く變遷し、殊に學術界の如きに至ては、日進月歩停止する所を知らず。昨者洛陽の紙價をして貴からしめたる傑作も、今者高閣に束ねられて、復た人の顧みるものなきを常とするに關らず。獨り吾が富國論の更に其聲價を減ぜざるのみならず、歲月を経るに隨つて愈、其光輝を發揚する所以のものは、其眞價の偉大なるがためにあらずして何ぞや。

若し世界の英語國民に向つて、人生必讀の三大書籍を投票

せしめんか。余は信ず、其多數は必ず聖書、シエークスピア及び吾が富國論を以てせんことを、政治、經濟、法律、社會學等、社會に關する學に志すものは勿論、苟も富の人生に於て如何なる意義を有するかを知らんと欲するものに取りて、富國論は實に必讀の書なりと云はざるべからず。

然るに其書今は既に一箇の古典に屬し、加ふるに頗る浩澁なるの故を以て、何人も是を繙讀するに較、躊躇の色なき能はず。ために空しく其書の盛名を耳にするのみにして、親しく是に接して啓發の益を受くる能はざるもの比々皆な是れ獨り普通讀書社會に於て然るのみならず、自ら學者を以て任ずるものにして亦た往々斯の如きものなきにあらず。

是に於てか、曾てハーバード大學の經濟學教授として令名あり、今は故國に歸りて、バートンガム大學に講座を擔任せるアシレー博士、本書の要を摘し、萃を抜き、最も簡潔にして讀了に便なる一冊子となせり。其量に於ては原本の約五分の一に過ぎざれども、取捨最も宜しきを得たるを以て、其質と眞價に於ては敢て原本と異なる所なしと云ふも決して過言にあらず。さればオクスフォールド、ケンブリッジ、エール、ハーバード等の諸大學を始め、幾多の大學専門學校は參考書として、是を採用し、一般讀書社會も亦た富國論の再生なりとして大に是を歡迎し、容易に斯の如き名著を繙き得る機會に接するを喜び合へり。

吾邦人が浩瀚なる原書を讀破するの困難は到底英米人の比にあらざる吾國の讀書社會に於て、アダムスミスと富國論の名を知らざるもの甚だ罕なるに關らず、親しく是を閱讀したるものは極めて少數の専門學者に限れるが如き固より怪むに足らず。吾人は該書の邦譯が必ずしも吾讀書社會に於て、屋上更に屋を架するものにあらざるを信ぜんと欲す。

譯文は固より原文に忠實なると同時に勉めて直譯に陥るるなからんことを期せり。されども説明引例等の部分は多く省畧せられて、議論の綱要のみとなれるを以て、是れが理解に多少の思考力を要するものあらん。本書の如きは其性

質上一讀の後直ちに閑却せらるべきものにあらず、固より精讀熟思せらるべきものなりと信ずるなり。

東京市外下濫谷の僑居に於て

明治四十三年六月

三上正毅識

アシレー教授序

アダム、スミスは紀元千七百二十三年六月五日、蘇國フキフシヤなるカーカルデーに生れ、千七百三十七年グラスゴ―大學に入り、千七百四十年には、オクスフホルドなる「バリオル」校に轉じ、止まること六年餘に及びたりしが、千七百四十六年に至て、始めて故郷なるカーカルデーに歸り、老母の傍に侍しつゝ、尙其研究を續けたり。

千七百四十八年の冬エチンバラに於て、カムス卿の庇護の下に修辭學、並に美文學の講演を開きたりしが、彼がダビツド、ヒユームと交を訂するに至りしは恰も是頃のことなり

アシレー教授序

アダム、スミスは紀元千七百二十三年六月五日、蘇國フキフシヤなるカーカルデーに生れ、千七百三十七年グラスゴウ大學に入り、千七百四十年には、オクスフホルドなる「バリオル」校に轉じ、止まること六年餘に及びたりしが、千七百四十六年に至て、始めて故郷なるカーカルデーに歸り、老母の傍に侍しつゝ、尙其研究を續けたり。

千七百四十八年の冬エヂンバラに於て、カムス卿の庇護の下に修辭學、並に美文學の講演を開きたりしが、彼がダビツド、ヒュームと交を訂するに至りしは恰も是頃のことなり

八
き。千七百五十一年グラスゴー大學の論理學教授に任ぜられ、其翌年には倫理學の教授となり、千七百五十九年始めて倫理學を著はし、漸くにして其文名を認めらるゝに至りぬ。千七百六十三年バツクルー公爵の長子が歐洲大陸に旅行するに際り、其師傅たらんがために、教授の職を辭し、海外に在ること三年、多くは巴理及びトールースに住したりき。彼がクエノー、チユイルゴー其他當時の佛蘭西經濟學者、即ち重農派の人々と相知りしは此間のことなりき。斯くて千七百六十六年再び故郷なるカーカルデーに歸り、退隱すること十年、其間富國論の述作に従事し、千七百七十六年に至り、遂に是を世に公にし、大に其名聲を揚げたり。夫

より彼は倫敦に來りて、當時の學者社會に出入し、ジヨンソンが主宰せし一の俱樂部に列りたりしが、居ること二年、千七百七十八年に至て彼は蘇國稅關の官吏に任ぜられて、エヂンバラに移り住み、斯くて千七百九十年彼が身を終るまで此處にありき。

「ウエルス、オブ、ノーシヨンス」は彼が存命中、既に五版を重ね、其後幾度か版を改め、殆んどあらゆる歐洲の國語に翻譯されたる而已ならず、マカロク、ソロルド、ロージャース、ニコルソン教授其他の諸學者の是が註解を出版するもありき。アダムスミスに關する是等の記事は、千七百九十三年に書かれたるチユカルト、スチユワート氏の書に據るものなれ

ども、彼が傳記の材料は頗る缺如せり。千八百八十七年ハルデン氏の著に係る畧傳あり。ウエルス、オプ、ホーシヨンスの摘要と短評とを含み、其著書目録を附録とせり。千八百九十四年ジエームス、ボナー氏はアダムスミスの藏書目録を出版しけるが、其中に彼の遺言狀、親筆、カーカルデーに於ける彼が住家並に庭園の模様及び現存せる彼が肖像に對する批評等あり。

本書に拔萃せるは原著の六分の一乃至五分の一なり。必ずしも、其最も興味ある部分、若くは最も必要なる部分而已を取れりと云ふにあらず。本書の目的は、アダムスミスが經濟學全體に關する概觀を與へんとするにあり。されば多くの

説明例證等を除去したる而已ならず、英國の植民地政策、並に東印度會社に關する事の如き全篇省畧に附せり。要するに本書は原著よりも一層理論的の傾向を有するものと云ふことを得べし。若しアダムスミス時代の事情を學ばんと欲するもの、或は彼が識力の廣大なることを充分に知らんと欲するものは、勢ひ原著に頼らざるを得ず。されど本書は彼が議論の構造に必要な何物をも省略することなきは體かなり。彼の歴史的、記述的部分の如きは畢竟するに説明の材料たるに過ぎずして、全く一種の附屬物たるに過ぎず。是を省略したらん方却て彼の著と、其に續ける英國經濟學者との關係を明かならしむることを得べきなり。

本書は第一版に據れり、千七百八十四年發行の第三版に於て聊か増減されたる所あり、省略されたる部分は圓括弧の中に増補されたる部分は方括弧の中に置きて是を明かにせり。

目次

緒言及本書の概要……………

第一編 生産力進歩の原因並に生産物の自然に
 社會の各階級間に分配さるゝ順序を論ず……………七

第一章 分業論……………

第二章 分業の起る所以を論ず……………

第三章 分業は市場の範圍に隨て制限さるゝを
 論ず……………

第四章 貨幣の起原並に其使用……………

第五章 物品の眞價と名目上の代價即ち其勞力……………

上の代價と金銭上の代價とを論ず……………壹

第六章 物價の組成分……………壹

第七章 物品の自然價と市價……………壹

第八章 勞銀論……………二

第九章 利益を論ず……………二

第十章 使用の異なるに由りて生ずる勞銀と利益の相違……………二

第一部 業務の性質より生ずる相違……………三

第二部 歐洲各國政府の政策より生ずる相違……………四

第十一章 地代論……………五

第一部 常に地代を生ずる土地の生産を論ず……………五

第二部 「時としては地代を生じ、時としては生ぜざる土地の生産を論ず」

第三部 「同上生産物の價格の間に生ずる相違」

「過去四世紀間に於ける銀價の變動より生ずる物價の相違、銀價の變動は是を第一、第二、第三の三期に分つことを得べし」

「金銀比價の變動より生ずる相違」

「銀價は今後尙引續きて下落すべしと云ふ疑惑の基礎」

「三種の原産物の眞價の増加に對する三種の結果、第一種、第二種、第三種」

「銀價の變動より生ずる相違の結論」

「製造品の眞價の増加より生ずる結果……………」

結論……………」

第二編 資本の性質、貯蓄及び其使用を論ず……………三

第一章 資本の區別……………一六

第二章 「一般資本中の一種類と見做されたる貨幣、即ち國民的資本を維持する費用」……………二〇

第三章 資本の貯蓄、生産的及不生産的労働……………二〇

第四章 利息を目的とする資本……………二五

第五章 資本の異なる使用法……………二五

第三編 富の進歩の國々に由りて異なる所

以を論ず……………二五

第一章 富の自然の進歩……………二五

第二章 「羅馬帝國の没落後、歐洲各國政府の農業を輕視したる情態」……………二五

第三章 「羅馬帝國没落後に於ける都市の勃興と發達」……………二五

第四章 「都市の商業が國家の進歩に貢獻したる次第を論ず」……………二五

第四編 經濟學說……………二五

序論……………二五

第一章 貴金派一名重商主義……………二五

第二章 國內に於て生産し得る物品の外國輸入を制限すること……………二五

第三章 「貿易關係の自國に不利なりと思惟せらるる國々より輸入せらるる物品に對して極端の制限を加へしこと」……………二五

第一部 「重商主義の立場より見るも斯る制限の不道理なるを論ず」

「貯蓄銀行殊にアムステルダムの夫等に關すること」

第二部 「他の主義に由りて是等の制限の不道理なるを論ず」

第四章 「拂戻税を論ず」

第五章 「保護金を論ず」

第六章 「商業條約」

第七章 「植民地」

第一部 「新植民地設定の動機」

第二部 「新植民地繁榮の原因」

第三部 「亞米利加の發見並に喜望峯より東印度に至るの航路を發見したるに由りて得たる歐洲の利益」

第八章 重商主義の結論……………三〇三

第九章 重農派即ち土地の生産物を以て國家の富

と收入の唯一の原因なりとする學派を論ず……………三〇四

「附録 蘇格蘭の鯨の漁業に關すること」

第五編 國家の收入を論ず……………三〇五

第一章 國家の費用……………三〇六

第一部 「國防費」

第二部 「裁判所の費用」

第三部 公共機關の費用……………三〇七

第一款 「商業の便宜のための公共機關」

第二款 「青年教育機關の費用」

第三款 「一般人に對する教育機關の費用」

第四部 「主權者の威嚴を保つに必要なる費用」

第二章 一般即ち公共收入の原因……………壹

第一部 「主權者或は國家に屬する收入の原因」

第二部 租稅論……………壹

第一款 賃貸料に對する租稅、地代に對する租稅、地代に比例せ

ず、土地の生産に比例して課せる租稅、借家料に課する租稅……………三六

第二款 利益即ち資本より生ずる收入に課する租稅、特殊の營

業より生ずる利益に課する租稅……………三六

第三款 勞銀に對する課稅……………三五

第四款 各種の收入に一樣に課するを目的とする租稅……………三五

人頭稅……………三五

消費稅……………三五

第三章 「公債論」

以上目次中括弧内にあるは原本にありて、本書に於て省略に附せられたる部分なり。其如何に原本の抄略せられたるかを示さんがために特に是を掲記す。

富國論目次終

富 國 論

アダムスミス 原 著

ドクトル、オブ、フイロソフイー 三上正毅譯述

緒 論

國民間に財貨を産する原因并に其性質に關する研究

國民が年々消費する必要上并に便宜上の物品を供給する財源は、その年々の勞働にあり、各國民は直接に其勞働に由て産出したるものを消費するか否らざれば其勞働に由て得たるものを以て、他國民より購買したるものを消費す

るか、二者其一を出づべからず。

されば其生産品若くは是に依て購買したる物品の多寡と、是を消費する人類の多少とに比例して、國民は其必需品并に便利品をば充分に供給され、或は缺乏を感ずるの相違を生ずるなり。

されど此比例なるものは、何れの國民間に於ても、二箇の異なる事情に依て支配さるゝを常とす。第一は即ち其労働に對する熟練機巧并に判斷力の程度如何にあり、第二は即ち有益なる労働に従事するものと、是に反するものゝ多少に依るなり。土地の肥瘦、氣候の寒熱、地域の廣狹の如何に關らず、年々其國民に對する物資の供給の豊富なると、缺乏せるとは、必ず以上二箇の事情に依て左右されざるべからず。

而して此物資の供給の豊富なると、缺乏せるとの相違は、第二の事情に負ふよりも、第一の事情に因すること最も多しと云はざるべからず。漁獵に依て生活せる蠻人の社會に於ては、身體の健全なるものは、各人必ず多少其有益の労働

に従事し、自己の外其家族若くは種族中の老幼病者等自ら漁獵に従事する能はざる者のために、生活の必需品を供給せんことを勉むるに關らず、彼等は常に貧困にして、時としては其老幼病者等を殺戮し、若くは是を見殺にするの必要に逼らるゝことなきにあらず。是に反して文明富昌の國民間にありては、其大多數の者は更に労働せざる而已ならず、自ら労働する者に比して、拾倍或は百倍の物資を消費するものあるに關らず、社會の全生産額は非常に豊富にして、各人何れも充分に必需品を供給さるゝの例少からずして、其最下級の労働者すらも、若し勤勉ならんには、蠻野の社會の何人よりも其必需品の多くを受ずることを得るなり。

斯の如く労働生産力の發達する原因を論じ、并せて其生産物が如何にして會にありて階級事情を異にせる種々の人々の間に分配さるゝかを研究せんとす。是れ本書第一卷の目的なりとす。

國民の労働に關する熟練機巧并に判斷力の如何なる程度にあるを問はず、其

情態の繼續する限り、年々供給さるゝ其物資の豊富なると、缺乏せるとは、其國民間に於て、年々有益の勞働に従事する者と、然らざる者の多少に依て定まらざるべからず、而して有益生産的の事業に従事する者の多少は、何れの社會に於ても、是に使用さるゝ資本の多寡と、其使用の方法に依て決せらるゝを見ん。されば本書の第二卷に於て吾人は、資本の性質、其貯蓄せらるゝ次第、并に資本と勞働の關係に就て論究する所あらんと欲す。

其勞働上に於ける熟練、機巧、并に判斷力に於て相當の程度に進歩せる各國民の爲す所を見るに、其方針、行働の大に相違する所あるを發見すべし、而して其生産の結果の同一ならざるは、固より當然なりとす。或國民は特に地方の産業に獎勵を與へ、或者は都市の事業に殊に注意を拂ふと云ふが如き傾向ありて、諸般の産業に對して、公平均等の待遇を與ふる國民なるもの未だ曾て是あるを聞かず。羅馬帝國没落以後、歐洲各國の政策は主として、技藝、製造、商業等都市の産業に重きを置き、農業、其他地方の産業を比較的輕視せるに似たり。第三卷

に於て吾人は、斯の如き政策を誘起し、成立せしめたる事情に就て論ずる所あらんと欲す。

是等の異なる政策たるや、始は國家の幸福の上に如何なる結果を及ぼすべきかを思考したるにあらず、又た何等の先見を有したるにもあらず。只だ特種の階級に屬する人々が、自己の利益のため、或は其偏見に依りて採用したるものなるべけれども、其結果は種々の異なる經濟學說を喚び起すこととなり、其或者は都市に於ける産業を重視し、或者は地方の産業を過大視するに至りぬ。而して是等の學說なるものは、管に學者の意見の上に影響を及ぼしたる而已ならず、亦た主權者の行働を左右することとなりぬ。吾人が第四卷に於て試みんと欲する所は、即ち是等の學說を批評し、其各國民各時代に及ぼせる影響を研究するにあり。是を要するに、第一卷より第四卷迄は、國民の歳入は何に依て成立するか、換言すれば、各國各時代の人民をして、其年々の需要を満足せしむる財源は如何なる性質のものなるやを論じ、第五卷に於ては、政府の歳入に就

て論せんと欲するなり。

第一編

労働生産力進歩の原因、並に諸種の階級間に
生産物の分配さるゝ順序を論ず

第一章 労働の分業

労働生産力の大きな進歩と、其熟練技巧、判断力の發達とは共に分業の結果なること明なり。

社會一般の事業に於て、分業の效果の如何に顯著なるかを知らんと欲せば、須らく或種類の製造業に就て其作用を観察するを要す。分業の法は最も些細なる業務に於て、殊に充分に行はるゝ様一般に想像せらるれども、實際に於て重大の事業よりも、些細なる業務の方却て多くの分業が行はるとは思惟すべか

らず。唯だ小數者の小需要に應すべき小製造業に於ては、労働者の數も亦隨て少きが故に、諸種の異なる部分に従事せる職工を悉く同一工場に集はしめ、一時に是を監視することもなし難きことにあらず。是に反して、大多數者の大要求に應すべき大製造業に在りては、其各部分の役務に従事せる職工而已にても、是を一工場に集合せしむる能はざる程の多數に上ることあるが故に、吾人が一目の下に見能ふ所は、單に一小局部の勞役に従事する者に過ぎざるなり。されば大製造業に於ては、實際小製造業よりも多くの部分に區別され居るとも、充分に分業の情態を看取すること能はざるなり。

是故に吾人は、今最も些細なる製造業にして、其分業の情態が最も能く世人の注意を喚起せる止針製作のことより例證を採らんと欲す。該職業に關して教育を受けざる者、分業によりて各箇別々の業務となれる（又其機械の用法に習熟せざるもの、其機械の發明も分業によりて促されしならん）は、如何に努力するも一日一本の針を製作するは困難ならん。況んや、一萬二十本を製作するこ

とは到底不可能なるべし。されど實際今日に於ては、常に其全體の仕事が特種の業務たるのみならず、幾多の部分に別れたる其一小部分も、亦た一箇特別の業務となり居るなり。一人が針金を引き出せば、一人は是を真直にし、第三者は是を切り、第四者は是を尖らし、第五者は頭を附けんがために上部を磨くなり。而して頭を作るために、又た二三の異なる手数を要するなり。夫より頭を附くるもの、是を白くするもの、紙に包むもの、何れも重要な業務なれば、一本の止針を作るために、無慮拾八箇の手数を要する次第なり。而して或製作所にては、一手数毎に異なる職工をして、是に當らしめ、或製作所にては一人をして二三の異なる仕事を行はしむるなり。余曾て僅かに拾人の職工を使用せる一小製作所を見舞ひたることあり。小製作所のこと故、一人の職工が二三の異なる部分の仕事を担当し居れり。貧困にして、必要の機械すら充分に完備し居らざるに關らず、彼等が努力する時は、一日拾貳斤（約二ポンド）の止針を製作することを得ると云へり。而して一斤の止針は中形なるもの四千本以上を含有するなり。されば拾人

の職工にて一日四萬八千本以上の止針を製作する次第にて、是を一人に割當つれば、一日四千八百本以上の勘定となるなり。されども彼等が各獨立して作業に従事し、且つ業務に對して特種の教育を受くることなかりせば、彼等は一日貳拾本を製作すること能はざるは勿論、恐らく一本をも作り得ざりしならん、換言すれば、彼等が今日適當なる分業並に共同の結果として作り得る數の貳百四拾分の一を作り得ざるは勿論、其四千八百分の一を製作することすら困難なりしならん。

其他の技術若くば製造業に於ては、或は止針の場合に於けるが如く、爾かく單純なる多くの業務に分割せられざることあるべしと雖も、分業の結果が其生産力を増加するの一事に至ては決して異なることなし。思ふに諸般の職業の分立するに至りしは此利益あるに由るなり。而して此職業の分立なるものは、工藝の最も進歩發達せる國々に於て、最も充分に行はるゝを見るなり。幼稚なる社會に於て、一人の手に依て爲す所のものを進歩せる社會に於ては、常に數

人の手に依て是を爲すなり。凡て進歩せる社會に於ては、農夫は農夫にして、製造家は製造家なり。而して一の完成せる物品を生産するに必要な勞働は必ず多數の手に分割さるるなり。麻を栽培して「リネン」を漂白し、是を滑かにする迄、羊毛を成長せしめて、羅紗を染め、衣服を仕立つるに至る迄、如何に多くの階段を経たりとするぞ、農業に至ては製造業の如く充分に其勞働を小分する能はず。又甲の業務と乙の業務との間に截然たる區別をなす能はず。鍛冶屋と大工とが區別さるゝ如く、牧畜者と穀物を作る者とは爾く判然と區別する能はず。紡績者と織る人とは異なるれども、耕やし、鋤き、播種し、收穫することは同一人の手に依て爲さるゝことあり。農業に於ては、其種々の異なる作業が連續して同時に存在するにあらず。各期節に隨て異なる作業を要すると故、一人の者が斷へず同一事業に従事すること能はざるなり。蓋し農業に於ける生産力の進歩が、工業の夫れと相伴ふこと能はざる所以は、全く其業務の性質が工業の如く充分に分業する能はざるに由るなり。富盛なる國民は概して農業

に於ても工業に於ても他國民に比して卓越するものなれども殊に其工業に於て優秀なるを常とす其土地は善く耕耘され多くの勞働と資金は費やされ隨て其廣袤と天然の地味に比例して多くの收穫を得るの常なれども而かも其增收の割合が費されたる勞働資金の割合に勝ることは稀なり農業に於ては富める國の勞働は必ずしも貧國に比して多くの收穫を持ち來すにあらず少くとも其工業の生産力の然るが如くなる能はざるなり故に富める國に於て生産さるゝ穀物は其品質の同等なる限り必ずしも貧しき國よりも廉價なる能はざるなり……

分業の結果として同一の人数によりて爲さるゝ作業の分量の激増するは左の三箇の事情に因るなり第一職工の技巧の進歩すること第二一の作業より他の作業に轉する間に失はるゝ時間を省約すること第三勞働を便利にし勞力を減じ少數者をして多數者と同様の作業を爲し遂げしむる多くの機械の發明せらるゝこと是なり

第一 職工の技巧の進歩が其業務より生ずる生産額を増加するに與つて力あることは論を俟たず而して技巧の進歩は主として分業に依て促進せらるゝ何となれば分業に依りて各箇人が擔任すべき業務は最も單純のものとなり且つ生涯を通じて同一業務に従事することを得ればなり普通の鍛工にして鐵槌を打振るに慣るゝも釘を製作したる經驗なきものが何等かの事情に依りて是を製作すべく餘儀なくせられたりと假定せよ余は信ず彼は辛ふじて一日二三百本を作るに過ぎざらん而かも極めて拙劣なるものならんと是を製作したる經驗あるも専門家ならざる鍛冶屋をして是を作らしめば一日刻苦して八百乃至一千の釘を得るに過ぎざらん而かも若し専門熟練の釘鍛冶をして是を作らしめば如何余は屢二十歳以下の少年にして彼等が其全力を發揮したる場合に於て一日二千三百本以上を製作するを見たることありし一本の釘を作ることは決して單純なる作業にあらず一人にて槌を取扱はし時々火を整頓し鐵を熱せしめ釘の總ての部分を鍛へざるべからず而して其

頭部を鍛へんがためには、其器具を代へざるべからず。止針又は金屬製の卸を製作する場合には、其區分されたる箇々の作業は遙かに單純にして、是を以て生涯の業務とせる職工の技巧熟練に於ても大に勝る所あり。是等の工業に於ける作業中の或者の敏活迅速に行はるゝことは、是を實見せざるもの、到底人間業にて爲し得べしと想像する能はざる所なりとす。

第二、一の作業より他の作業に轉ずるがために失はるゝ時間を省約するの利益は、世人の想像するに勝りて大なるものあり。異なる器具を以て、異なる場所に於て行はるゝ、一の作業より他の作業に轉せんことは決して迅速になし得べからず。小農にして機械を兼業とする者ありと假定せよ。其機臺を下りて田畝に行き、田畝より復び機臺に上るために失はるゝ時間は決して尠少なりと云ふべからず。固より同一工場内にて爲し得べき二種の作業間にありては、時間の損失爾く大ならざるべしと雖も、尙決して輕視すべきにあらず。何人も一の作業より他の作業に轉換するに當りては、多少躊躇の氣味あるを常とす。

而して其始めて新たなる作業に従事するや、暫時の間は何となく作業の手に着かざる趣ありて、其銳意熱心に是に従事するに至る迄には多少の時間を経過せざるべからず。田舎の職工の多くは殆んど半時間毎に其作業器具を取代へ、一日貳拾度も異なる作業に従事せざるべからざる境遇にあるが故に、必然の結果として、其逡巡と閑慢とは習慣となりて、最も急を要する作業に對しても、銳意熱心に是を遂行すること能はざるに至るなり。是故に其技巧熟練に關する問題は措て問はずとするも、只だ此一事次にても其作業の効果を減ずること頗る大なるものあるなり。

第三、適當なる機械を用ゆるがため、如何に作業の上に便利を得、其勞力の省約さるゝかは、何人も熟知する所にして、殆んど説明を要せざるに似たり。されば吾人は只だ、斯の如く作業に便利を興へ、其勞力を省約するに與つて力ある機械の發明は、主として分業に負ふ所多きを論ずるに止めんと欲す。多種多様の事に心意を散漫ならしむるよりは、一事物に其注意力を集注せしむる方、其

目的を達するの手段方法を發見するに容易なることは、無論のとなり而して分業の結果は自然に人をして、最も單純なる一目的に其注意力を集注せしむるが故に、隨て其從事する作業に改良發達の餘地ある限りは、人をして是を遂行するに最も容易便利なる方法を發見せしむるの傾向あるなり、是を實例に徴するに、充分に分業の行はるゝ工業に於て使用せらるゝ機械の多くは、極めて單純なる作業に従事する普通職工に由て發明せられしを知るなり、屢々工場を見舞へるものは、何人も、普通の職工が、自己の擔任する業務の遂行に使へんがために、發明したりと云ふ有益なる機械を見ることあるべし、始めて消火機の發明せられたる頃、是を使用する際には、唧子の上下する毎に、汽罐と汽管との間の連絡を開閉せんために、小兒を雇用するの常なりしが、或時遊戯好きの一小兒あり、例の如く其役目を守り居りしが、偶々思へらく、此連絡所を開閉する柄の部分より、機械の他の部分に紐を連結すれば、癖は人手を借らずして自由に開閉せんと、斯くて消火機發明以來の一大改良は、一小兒が遊戯に耽ら

んがため、其勞を省かんとするの動機に由て爲し遂げられしなり。されども機械に關する凡ての改良は、決して是を使用する人々に依て而已發明されたるにあらず、機械製造の業が一箇特種の業務となれるに迫ては、是等製造家の工夫に依て幾多の改良は案出されたりき、或は哲學者若くは思索家と稱せられ、何事をもなさず、而かも凡ての問題に注意を拂ふ人々に由て改良發明されたることも少なからず、彼等は最も縁遠き諸種の勢力を結合するの便利を有す、社會の進歩するに隨て、推理若くは思索なるものも、他の業務と等しく、或階級の人々に取て、主要なる、否時としては唯一の業務たるに至りぬ、而して又た他の業務に於けると等しく、幾多の異なる部門に分れ、其各部門は又夫々一箇の職業となれり、他の業務に於けるが如く、推理の學に於ても、其部門の小分されたるがために、時間を省約し、進歩を助くるの効を現はし、各人何れも自己が管掌の部分に熟達するの結果、全體に於ける効果を増し、大に學術の進歩を促すことゝはなりぬ。

Handwritten notes in the left margin, including the number '117' and some illegible characters.

善政を有する社會が一般に富昌にして、最下級の勞働者迄充足する所以のものは、分業の結果として、凡ての事業より生ずる生産高の非常に増加するがためなりとす。各勞働者は其働きの結果として、其所要以上に多くの物資を生産するが故に、其自己に餘れるものを以て、他の餘れる所と交換することを得るなり。斯く一人は他の者に向て其需要する所のものを充分に供給し、他の者は又た彼に向て彼が需要を充分に満たしむるが故に、是處に社會の各階級を通じて、豊富充足することを得る也。

試に文明の國に於て、最も普通なる職工、又は日雇勞働者の生活品に就て觀察せよ。彼が用ゐつゝある其必要品を製作せんがために、殆んど數ふるに堪へざる程の多數の人々の多少是に關與するを發見すべし。假令は彼が身に纏ふ粗末なる羅紗服を見よ、無數の人の勞働の結果なるものを、其勞働者も亦其分業を續く者染むる者紡ぐ者織る者製する者運ぶ者賣る者其他無數の人が是に關與しつゝあるなり。

明國に生存する者は數千人の共働補助なくしては立ち行くべからざるなり。王侯の贅澤に比すれば、一職工の生活は極めて單純のものなるべし。而かも文明國に於ける賤しき一職工の生活は、亞弗利加の内地にありて、人命財産の上に絶對の權力を有する國王の生活に比すれば遙かに複雑なることを知らざるべからざるなり。

第二章 分業の原因

前章に續述せるが如き洪益を生産界に與ふる分業なるものは、其結果を豫見して、社會の幸福のために、人類が其智恵に依て案出したるにあらず。一見斯の如き大なる結果を來すべしとは見えざる、人類自然の性情より徐々に發達し來れる必然の結果なりとす。其人類自然の性情とは互に事物を交換せんとするの傾向是なり。

此人類の傾向なるものが、更に其以上に溯るべき原因を有せざる本原的の性

情なりや、或は人類が理性と談話の能力を有する結果として、出で來れものなりとするは、更に道理あるに似たれども、夫は此處に論究すべき限りにあらず。何れにしても是れ人類一般の性癖にして、他の動物間に於ては絶へて發見すべからず。……人は常に他人の助力を請求するの必要を感ず、而して只だ他人の恩恵に依頼して是を得んとするも得べからず。徒らに人の恩恵に依頼せんよりは、彼れの要求に應ずるは自ら利する所以なるを明かにして、他の自利心に訴ふるに如かず。凡て賣買交換なるものは斯くして行はるゝなり。吾れに吾が求むる者を與へよ。さすれば君は君が要する所を得べしと。斯くして吾人は相互に自ら要求する所の大部分を得るなり。吾人が必要の飲食物を得るは、肉屋、パン屋、酒屋等の恩恵に依るにあらず。彼等自身の利益に依るなり。吾人は彼等の恩恵を求めず。彼等の自利心に訴ふ。されば吾人は吾人の必要を述べずして、彼等の利益に就て語るなり。……

吾人が相互に得る所の必要品の大部分は、斯く相互の協約、實物の交換及賣買

に依るが故に、分業の起る原因は全く人類が交換を求るの性情にあるなり。例へば遊獵牧畜の種族中に於て、他の人々よりも勝れて巧妙に、且つ迅速に弓矢を作るものあり。屢、是を以て他の家畜若くは鹿肉と交換するとありとせんに、遂には自ら山野を跋涉して狩獵に従事せんよりは、座して弓矢を作る方却て多くの家畜若くは鹿肉を得る所以なるを發見すべし。斯くて彼は其一身の利益上より打算して弓矢を作ることを其職業とするに至るなり。或は又彼等が居住すべき小屋を組み立て、家根を葺くことに堪能なるものありとせば、自然に近隣の人々のために其住家を造るの依頼を受け、其報酬として家畜若くは鹿肉を得ることとなり。遂には其利益上一箇の大工と成り了するなり。斯の如くにして、或者は鍛冶屋となり、或者は製革者となり、又た或者は裁縫者となり。換言すれば、自己の生産物の餘利を以て、他人の生産物の餘利と交換し得ることが確實なるに至れば、何人も自己に最も適當なる特種の業務に身を任ね、益々其特長を鍊磨發揮せんとするに至るなり。

目的を達するの手段方法を發見するに容易なることは、無論のとなり。而して分業の結果は自然に人をして、最も單純なる一目的に其注意力を集注せしむるが故に、隨て其從事する作業に改良發達の餘地ある限りは、人をして是を遂行するに最も容易便利なる方法を發見せしむるの傾向あるなり。是を實例に徴するに、充分に分業の行はるゝ工業に於て使用せらるゝ機械の多くは、極めて單純なる作業に従事する普通職工に由て發明せられしを知るなり。屢々工場を見舞へるものは、何人も、普通の職工が、自己の擔任する業務の遂行に便せんがために、發明したりと云ふ有益なる機械を見ることあるべし。始めて消火機の發明せられたる頃、是を使用する際には、唧子の上下する毎に、汽罐と汽管との間の連絡を開閉せんために、小兒を雇用するの常なりしが、或時遊戯好きの一小兒あり、例の如く其役目を守り居りしが、偶ま思へらく、此連絡所を開閉する柄の部分より、機械の他の部分に紐を連結すれば、舞は人手を借らずして自由に開閉せんと、斯くて消火機發明以來の一大改良は、一小兒が遊戯に耽ら

んがため、其勞を省かんとするの動機に由て爲し遂げられしなり。されども機械に關する凡ての改良は、決して是を使用する人々に依て而已發明されたるにあらず。機械製造の業が一箇特種の業務となれるに迫ては、是等製造家の工夫に依て幾多の改良は案出されたりき。或は哲學者若くは思索家と稱せられ、何事をもなさず、而かも凡ての問題に注意を拂ふ人々に由て改良發明されたることも少なからず。彼等は最も縁遠き諸種の勢力を結合するの便利を有す。社會の進歩するに隨て、推理若くは思索なるものも、他の業務と等しく、或階級の人々に取て、主要なる否時としては唯一の業務たるに至りぬ。而して又た他の業務に於けると等しく、幾多の異なる部門に分れ、其各部門は又夫々一箇の職業となれり。他の業務に於けるが如く、推理の學に於ても、其部門の小分されたるがために、時間を節約し、進歩を助くるの効を現はし。各人何れも自己が管掌の部分に熟達するの結果、全體に於ける効果を増し、大に學術の進歩を促すことゝはなりぬ。

Handwritten notes and scribbles in the bottom left corner, including the number '17' and some illegible characters.

人の天賦の材能なるものは普通に思惟せらるゝ如く爾く徑庭あるものにあらず。人が特種の業務に對して獨得の技倆を有する時には一種の天才として目せらるれども、其實多くは分業の結果なりとす。哲學者と市井の勞働者との間には、其性質上大なる相違あれども、天賦に依るよりは習慣教育に負ふ所多しとすべし。……されど若し人類に交換貿易をなすの性向なかりせば、人は各其要求する所の物品を自己の手に由て製作若くば獲得せざるべからず、而して凡ての人皆同様の作業に従事し、同様の業務を果さざるべからずして、種々の異なる業務の起らん筈なく、隨て材能の上に於ても大なる相違は起る間敷なり。

人類の此性向は異なる業務に従事する者の材能をして非常の懸隔を生せしむると同時に、亦た其相違をして有用なるものとならしむるなり。他の動物間に於ては、同種類に屬する異種族間に於ける天賦の材能の相違は人類間に於て、^けけよりも甚だしきに似たり。哲學者と市井の勞働者とは、其天賦の能力に於て、

必ずしも大なる相違なしと雖も、同じ犬の種類中に於て「マスタフ」と「グレーハウンド」「グレーハウンド」と「スパニエル」「スパニエル」と牧羊犬とは、其天性に於て有する相違の甚しきこと、到底哲學者と勞働者の比にあらざるなり。されども是等の異なる種族に屬する犬が互に其材能の相違を利用して、長短相助け、有無相通すると云ふことを聞かず……只た人類の間にありては、最も異なる能力を有するものも互に其用を爲すことを得るなり。人皆互に貿易交換せんとするの性向を有するが故に、各異なる能力に依て生産せる異なる物品の間に、互に交換貿易を行ふことを得るなり。

第三章 分業と市場の範圍

分業の原因は交換力にあるが故に、其働く範圍は常に交換力の廣狹に依て制限されざるべからず。換言すれば分業の範圍は市場の範圍と同一ならざるべからざるなり。

市場の甚だ狭小なる場合には、何人も自己の生産の餘剰を以て、他人の生産の餘剰にして自己に必要なものと交換するの機會充分ならざるが故に、何人も専心して一種の業務に而已身を委ねること能はざるなり。

業務の種類に依りては、假令劣等のことにて、大都會にあらざれば爲し能はざることあり。例へば門番譯者曰倫敦紐育などにてホテル其他客の出入頻繁なる所にて、其出入毎に客のために門扉を開閉する者を云ふ、日本の門番とは趣を異にせりの如きは都會の地にあらざれば到底其職を見出すこと能はざるなり。村落は勿論小都會の地にて、是を以て常職とせんことは困難なるべし。蘇國のハイランド地方の如き人煙稀少なる村落に於ては、各人皆な其家族のため、屠殺者となり、パン焼きとなり、醸造者とならざるべからず。斯の如き地位にありては、鍛冶工匠、左官等の如き者すら他の同業者の廿哩以内には是を發見すること稀なるべし。都會の地ならば、直ちに他の職工労働者を備ひ來りて爲さしむべき種々の業務も、各其隣家より數哩も離れ住する者にありては、

必ず是を自らせざるべからず。田舎の職工は何れに於ても、同種の材料にて爲さるべきあらゆる業務に従事するを常とす。大工は木を用ゆる凡ての仕事をなし、鍛冶屋は鐵を以てする凡ての業務に従事するなり。……

陸上の運輸に加ふるに、水運の便あれば、一層廣闊なる市場の開かるゝこと故、多くの工業は自然海岸又は舟楫の便ある河岸に於て發展成長し、内陸に於ける進歩發達は夫等の地方に比すれば大に後るゝを常とす。八頭立にて二人の御者の乗組める荷馬車に、四噸内外の荷物を積み、倫敦とエヂンバラの間を往復せんとせば六週間を要すれども、六人乃至八人の水夫にて、倫敦とライスの間を航行すれば、同時日の間に二百噸の貨物を運送すること難からざるなり。されば水運の便に由て、倫敦、エヂンバラの間を往復せんとせば、同時日の間に、六人乃至八人にて、五拾臺の馬車が、百人の御者と四百頭の馬匹に由て運送すると同一量の貨物を運送することを得るなり。されば倫敦よりエヂンバラ迄二百噸の貨物を陸上にて運送せんとせば、最廉の方法に由るも、三週の間百人

の御者と四百頭の馬匹並に五拾臺の馬車を支持するの費用を要するなり。されども若し同量の貨物を水上にて運送するとせば、只だ僅に二百噸積の船舶一艘を保持し、六人乃至八人の水夫を支給するの費と、水陸保険料の差額而已にて足る次第なり。

水運の利便斯の如くなるが故に、是に由て其生産物を世界に供給し得る地方に於て、先づ其工藝技術の發達を來し、内陸地方に於ける發達の遅れたる固より怪むに足らざるなり。内陸地方にありては久しき間、其周圍の地、即ち其地方と河岸若くば海濱とを隔絶する地方に對するの外、其の生産物を販賣するに適當なる市場を有せざりき。是故に其市場の範圍は久しく其國の貧富と人口の多少とに比例せざる能はざりき。隨て其進歩は其國の進歩より後れざるを得ざるは固より當然のことなりしなり。……

最も信據すべき歴史に隨へば、最も早く開化したる國民は地中海の沿岸に住したりき。地中海は最も多くの港灣を有し、潮汐の干渉なく、隨て風に由るの外

波濤なく、多くの島嶼あり、而して其對岸を距ること遠からざりしが故に、未だ羅針盤の發明なき爲め、陸地の見えざる大洋中に出づることを恐れ、造船術の不完全なるため、怒濤の中に入ることを恐れたる幼稚なる航海者に取りては、最も適當の場所なりき。

第四章 貨幣の起源及其使用

一度び分業法の確立せらるゝに迫んでは、各人が自己の勞働に依て生産する所は、其需要の一小部分に過ぎず。其大部分は自己が生産する所の餘利を以て、他人の生産の餘利と交換するに依て是を得るなり。斯くて凡ての人皆交換に依て生活することゝなり、或程度に於て商人となり、繼て一箇の商業社會を形成するに至るなり。

然れども分業の方法が始めて行はれんとするに當てや、交換の實行上、展不都合の事情に際會するを免かれず。是處に一人あり、自らの需要に超過して或物

品を所有し、又た一人は是が缺乏を感ずると想像せよ、前者は固より是を手放さんことを望むべく、後者は其幾分を買はんことを願ふなるべし。されども若し後者にして前者が得んと欲する物品を所有せざるに於ては、此二人の間に交換は行はるべからず。肉屋が所有する肉類は其一家の需要を充たして尙餘りあり、而して酒屋とパン屋は肉の幾分を得んと欲す。されども彼等は各酒とパンを所有する而已にして、其他に交換に供すべき物品を有せず。而して肉屋は既にパンと酒とを有するが故に、是を得んことを望まず。此場合に於ては、彼等の間に交換を行はんと欲するも得べからず。換言すれば、肉屋は彼等のために商買たる能はず、彼等は又た肉屋に對して顧客たる能はず。何れも自己に餘分の物品を擁しながら、互に有無相通すること能はざるなり。斯の如き不便ある故に、分業の行はれてより以來、斷へず、世の思慮あるもの、間に、彼等自ら生産する特種の物品の外、世人の大多數が何時にても喜んで、自己の生産品と交換することを望むが如き物品を備へんと、の企劃ありしは固より怪むに足らざるなり。

思ふに幾多の異なる物品の此目的のために用ゐんと計畫され、又た實際に於て使用されたることならん。初代の社會に於て、家畜が此目的のために使用されたることあるは人の知る所なり。古代の社會に於て、物品の價值が家畜の數に依て言ひ表はされたることあるは吾人の屢々發見する所なりとす。其不便の如何に大なるものありしかは固より云ふを俟たず……

而して抵抗すべからざる幾多の理由に依り、長き間の經驗の結果として、遂に萬國民期せずして、金屬を以て此目的に充用することに一致することとなり。蓋し金屬は他の物品に比し、最も少き損失を以て、是を貯藏し得らるゝ而已ならず、滅失すること難く、損失なしに是を小分することを得、又溶解して元形に復せしむることを得べし。是れ他の物品の有せざる性質なりとす。而して是れ他の性質に勝りて、金屬をして商業流通の機關たるに適せしむる所以なりとす。例へば此處に鹽を求むるものあり、而かも交換のために家畜の外何物を

も所有せざるものありとせよ、彼は一時に牛又は羊一頭に償する丈の鹽を購求せざるべからざるなり。夫より以下を購求することは彼に取て不可能なり、何となれば彼が代償として與へんとする物品は損失なしに是を分割すること能はざればなり。同じ理由に依り、彼若し更に多くを求めんと欲せば、必ず其二倍若くは三倍、即ち二頭若くは三頭の牛羊に償する丈の鹽を買はざるべからざるなり。是に反して彼れ若し其代償として牛羊の代りに金屬を與ふるとせば、彼が現在得んと欲する物品の分量に應じて、随意に是を分割して與ふることを得るなり。

各國民は此目的のために、種々の異なる金屬を用ひたり。古代のスパルタ人は鐵を用ひ、羅馬人は銅を用ひたりしが、富盛なる商業國民間に於ては、凡て金銀を用ふることゝなりぬ。而して始は是等の金屬は鑄造刻印することなく、粗笨なる延板として通用されたるなりき……而かも斯の如き情態にて金屬を使用するに際り、二箇の大なる不便の伴隨す

るを發見したり。一は其重さを量ることにして、二は其品質を吟味するとなりとす。少量の差が代償の上に大なる相違を來すべき貴金屬に於ては、是を正確に秤量せんとせば、最も精密なる秤器を要するなり。殊に黄金を秤量するは最も精微の業務なりとす。尤も少量の相違に依て著る結果を來さざる廉價の金屬に就ては、爾く精確なるを要せざるは勿論のことなれども、一錢二錢の品物を賣買するに際し、其都度金屬の目方を秤量せざるべからずとせば、何人も其煩に堪へざるならん。若夫れ其品質を吟味するの一事に至ては、一層困難にして、繁雜の手續を要す。是を坩堝に入れて其一部を溶解するにあらざれば、其品質を確むること能はざるなり。されども貨幣鑄造の行はれざる以前に於ては、此困難繁雜なる手續を経るにあらざれば、往々にして欺騙さるゝの恐れあり。其交換する物品の代償として一パウンドの純金銀を受取る積りにて、唯だ外面丈け純金銀と見せかけ、其實最も粗末なる合金を受取ることあるべし。斯の如き詐欺にかゝらんことを防ぎ、交換の方法を容易にし、商工業の進歩を促

さんがために、進歩せる國民間に在ては、其國內に於て物品購求のために使用さるゝ特種の金屬の一定の分量に、刻印を附するの必要を感ずるに至りぬ。されば鑄造貨幣と造幣局の起原は彼の毛織物又は「リネン」の品質を證明せんがための検査所及び刻印と其性質を同ふするなり。其目的とする所は共に政府の刻印に依て、市場に持ち來されたる物品の善良なることを證明するにあるなり。

最初の間は此通貨の刻印なるものは、主として其吟味の困難にして而かも重大なる品質の善良なることを證明するを以て目的としたるに似たり。蓋し現今銀の地金若くは時々金塊に附せらるゝ記號の如き者にして、唯だ其一局部に而已附して、其全面を覆はず、又た其品質を證明する而已にして、重量を記載せざりしなり。アブラハム曾てマクペラの地の代價をエフロンに拂はんとして、四百シエケルの銀を秤量したることありき。其銀は商人の用ゆる通貨なりしと云はるゝに關らず、現今金銀塊を取引するが如く、其數に由らずして、重量

を秤りて渡したりしなり。……

是を正確に秤量することの不便と困難とは、遂に貨幣の兩面而已ならず、時として其周圍をも刻印を以て覆ふに至りぬ。されば斯の如き貨幣は、一々是を秤量することなく、現今の如く其數に依て取引さるゝことを得るなり。……凡ての文明國に於て、物品の賣買若くは交換の仲介となり、商業上必須の機關なる貨幣の由來起源概ね斯の如し。

借人が其物品を交換賣買するに際り、自然に注目する所の法則とは如何なるものなりや、請ふ吾人をして是を論究せしめよ。蓋し是等の法則は所謂物品の關係的若くは交換的價值を定むる所以なりとす。

價值なる語は二箇の異なる意義を有するを發見すべし。時としては或物品の効用を言ひ表はし、時としては或物品の他物品に對する購買力を云ひ表はすに用ゐらるゝなり。一は使用上の價值と稱すべく、他は交換上の價值と稱すべきなり。使用上に於て最も大なる價值を有するものにして、交換上に於ては極

めて僅かの價值を有し、若くは全く有せざるものあり、是に反して、交換上に於て重大の價值を有するも、使用の點に於ては極少の價值を有し、若くは全く是を有せざるものあるなり。水の如く必要なるものなし、されど是を以て何物をも購買すること能はず、ダイヤモンドは使用上に於て何等の價值を有せず、されども是を以て他の多くの物品と交換することを得るなり。

交換的價值を有する物品の支配さるゝ法則を研究せんと欲せば、吾人は須らく左の諸問題を解説せざるべからず。

- 一、 交換的價值の眞實の標準は何物なりや、換言すれば、凡ての物品の眞價格は何に由て成立するか。
- 二、 此眞價格を組成する諸種の異なる部分は如何。
- 三、 此等の價格の諸部分の或者又は全體をして、時としては其自然即ち通常の價格より高からしめ、時としては其以下に低減せしむる事情は如何、換言すれば、物品の市場即ち實際の價格をして、其自然の價格と呼ぶ所の者と並

行する能はざらしむる事情は如何。

第五章 物品の眞價と名義上の價格、即ち

労働上の價格と金錢上の價格

人は其生活上の必要、便利、娛樂を満足せしむべき事物を享受する程度に隨て、或は富めりと稱せられ、或は貧なりと稱せらる。然れども分業法の充分に行はるゝに至りし後は、直接に自己の労働に依て得る所は其需要の一小部分に過ぎずして、其大部分は他人の労働に依て得ざるべからず。隨て彼が富めると貧なるとは、彼が自由にし得る勞力の分量、即ち彼が夫を以て他物を購買し能ふ勞力の多少に由るなり。されば物品を所有して自ら是を使用せず、他の物品と交換せんと欲する者に取ては、其物品の價格は、彼をして他物を購買せしめ得る勞力の分量と同一たるなり。是故に凡ての物品の交換的價格の眞標準は勞力なりとす。

各物品の眞價格即ち是を得んと欲する人に對する眞實の代價は是を獲得するに要する勞力及び困難なりとす。物品を所有しつゝ、是を手放し、或は他物と交換せんと欲する人に對しては、各物品の眞價は、自ら是を免れて、他人に負課し能ふ所の苦勞と困難なりとす。吾人が金錢にて買ひ、若くは物品と交換する所のものは、自ら其身體を勞して得ると等しく、何れも勞力に依て購買する次第にて、其金錢と物品とは吾人をして勞役に服するを免かれしむるなり。即ち其金錢若くは物品は勞力の或分量を含有するものにして、吾人が夫れと同等の價値を含有すると想像する他の物品と是を交換するなり。勞力は最初の代價なり。凡ての物品に向て支拂はるべき原始的の貨幣なり。世界の凡ての財貨は元來金銀に依て購買されず、勞力に依て購はれしなり。而して是を所有し、或他の生産品と交換せんと欲するものあらば、そが其人に對する價値は、其人をして他の物品を購買することを得せしむるに足る勞力の分量と正しく同一なりとす。

富トハ何ぞヤ
詳細なる説明を
見よ

(ホップス氏の云へる如く、富は勢力なり。されども大なる財産を獲得し、若くは繼承したる者は必ずしも政治上、社會上に於て勢力を有することあらず。彼が財産は或は彼をして是を得せしむるの方便たらん、されども只だ是を所有する而已にては勢力とならざるなり。是を所有することに由て、彼が直接に得る所のものは其購買力なり。即ち市場にある所の勞力と勞力の結果たる生産に對する支配力なり。彼の財産の多少と此力の大小とは正しく相比例するなり。換言すれば彼が購買若くは支配することを得る他人の勞力の分量、即ち其勞力に依て生産されたる物品の多少に依て彼の富は大なりと云ふべく、又小なりと云ふべきなり。各物品の交換價は常に必ず其所有者に與ふる此力と同一たるなり。凡ての物品の交換價を計る眞標準は勞力なりと雖も、而かも實際に於ては物品の價格が常に勞力に依て計算さるゝにあらず。二箇の異なる勞力の分量間に比例を定むるの困難なることあり。其勞働に費やされたる時間の長短而已に依て其比例を定むるは固より非なり。其堪へたる勞作の度、并に應

用したる智巧の如何も亦計算に加へざるべからず。二時間の輕易なる作業よりは、一時間の困難なる業務は更に多くの勞力を要するなり。是を學習するに拾年を要する業務に一時間從事するは、何人にも爲し得る普通の作業に一ヶ月從事するよりも勝れり。然れども其勞苦と智巧を計量すべき精確の標準を發見せんことは容易の業にあらず。種類の異なる勞苦に依て生産したる物品を交換するに當りては、雙方の間に多少の讓步酌量を加ふるを常とす。即ち敢て精確なる標準のあるありて、按排整理さるゝにあらずして、人日常生活の事務を處理するに差支なかるべき、大體の算定に隨てなす所の市場の取引に依て決定さるゝなり。

且夫れ多くの物品は常に勞力夫れ自身と比較し交換さるゝにあらずして、他の物品と比較交換さるゝなり。故に自然の結果勞力の力量に依て其交換價格を計算せんよりは、他の物品の量に依て是を計算するに至るなり。世間の人亦多くは勞力の分量に依るよりは、物品の量に依て更に善く其價格を了解する

なり。一は明瞭にして手に觸るべきものなれども、他は抽象的の觀念なるが故に、假令如何に是を明白にするも、充分に是を了解すること困難たるなり。されども物品交換の風止みて、商業上に貨幣の用ゐらるゝに迫んでは、凡ての物品は他の物品と交換せらるゝよりも、貨幣と交換せらるゝ場合多し。……隨て各物品の交換價格は勞力又は勞力に依て購はるべき他物品の量に依てよりも、貨幣の量に依て計算さるゝことゝなりぬ。

然れども金銀も亦他の物品と等しく、其價格の變動を免かれず。或時は高く、或時は安く、或時は容易に是を購買することを得、或時は困難なり。金銀を購買するに要する勞力若くは他物品の分量の多寡は、其賣買の行はるゝ時に存在する鑛山より産出する金銀の多寡に依て定まるなり。第十六世紀中亞米利加に於て豊富なる金鑛の發見ありしたため、歐羅巴に於ける金銀の價格は其以前に比すれば三分の一に下落したり。是を鑛山より市場に持來す勞力を減するが故に、其市場に現れて後そが購買し得る所の勞力の量も亦た隨て小ならざる

を得ざるなり。思ふに金は銀價格の變動の最大なるものなるべしと雖も而かも斯の如き事例は歴史上決して稀有のことにあらざるなり。されども物體の尺度として、一步の廣さ、兩手を擴げたる長さ、若くは一握りと云ふが如き、斷へず夫れ自身の量に於て變化するが如き物は、他物の分量を計る精確なる標準たる能はざるが如く、夫れ自身の價格の斷へず變動する物品は、他物品の價值を測定する精確なる標準たる能はざるなり。然るに勞力の同分量は、時と處に關らず、勞働者に取りては同一の價值なるべき筈なり。其心身の普通の情態にして、其熟練技巧の通常の程度に於て、彼は常に其安樂と自由と幸福の同一の分量を犠牲に供せざるを得ざるなり。彼が代價として受くる所の物品の分量の如何に關らず、彼の拂ふべき代價は常に同一なりとす。是に依て彼が買ひ得る分量は時に依て多少の差あるべしと雖も、變化するは物品の價格にして、是を買ふ所の勞力は變せざるなり。何れの時代に於ても、何れの場所において、も、凡て是を得るに困難なるもの、即ち是を得るに多くの勞力を要する者は高

價にして、是を得るの容易なるもの、即ち是を得るに少量の勞力にて足るものは廉なるを常とす。其價格の決して變動せざるものは勞力而已なり。故に勞力而已凡ての時代凡ての場所に於て、凡ての物品の價を比較計量すべき、最後にして眞實なる標準たるなり。勞力は實際の代價にして、貨幣は只だ名義上の代價たるに過ぎざるなり。

勞働者に取りては、同量の勞力は常に同一の價值なりと雖も、是を雇傭する者に取りては、其價值の時に貴きことあり、時に賤しきことあるが如く見ゆ。彼は時としては多量の物品を拂はざれば是を得ず、時としては少量の物品にて是を得るが故に、彼に取りては勞力の代價も他物品と等しく、時に高下あるが如く見ゆるなり。然れども實際に於て時に高下あるは物品にして、勞力にあらざるなり。

故に此通俗の意味に於て、勞力も他の物品の如く眞實の代價と名義上の代價とありと云ふことを得べし。其眞實の代價は勞力に向て與へらるゝ生活上の

必需品及便宜品の分量より成り、其名儀上の代價は貨幣の分量より成ると云ふことを得べし。勞働者は其勞力に對する眞實の代價の如何によりて、或は豊富なるべく、或は缺乏を感ずべく、其名儀上の報酬の如何は更に關する所にあらざるなり。物品と勞働の代價を實際上と名儀上との二種に區別することは、單に理論上の問題に止まらずして、實際上に於ける重要な問題なりとす。同じ實際の代價は常に同一不變なれども、同じ名儀上の代價は金銀價格の變動により、其の價值に非常の相違を來すことあり。故に永久に地代を保有するの目的を以て、土地を~~買~~するに際し、其の借地料をして常に同一の價值を保たしめんと欲せば、金錢の額に由て定めざらんこと、是を受くる家族に取て重要なことなりとす。何となれば然せざるに於ては、其價值は二重の變動を蒙むらざるを得ざればなり。即ち一は同名稱の貨幣の含有する金銀の量の時代によりて同からざるより起る變動なり、二は即ち金銀の同量の價值が時代によりて同からざるより起る變動なり。時々の政府は其貨幣の含有する金銀の量目を

減少して、一時利益を得たるが如く、想像するものありたれども、是を増加するを以て利益ありと思惟するものは稀なり。余の信する所に據れば、古今各國の貨幣に含まれたる金屬の量は斷へず減少する而已にして、曾て増加したることなきに似たり。是故に貨幣に依て言ひ表はされたる借地料の價值は斷へず減少するの傾向あり。

米國に於ける金鑛の發見は、歐洲に於ける金銀の價值を減少したり。而して此傾向は永く將來に持續すべきに似たり。されば其支拂ひを鑄造したる貨幣の額(假令へば金貨幾磅と云ふが如く)によらず、金銀幾「オンス」と定むる共、金錢にて言ひ表はされたる地代の價值は増加するよりも減少するの傾向あるを知らべし。

地代を穀物の額に依て規定する時は、貨幣の額に依て定むるよりは、其眞價に變動を來すこと少なし。貨幣の或名稱に合まる、金屬の量の變化せざる場合に於ても尙然りとす。エリサベス女王の勅令第十八號に依て、凡て大學の貸地

料の三分の一は穀物又は其最近市場に於ける相場に隨て支拂はるべき事を規定されしが、此地代たる穀物より生ずる金額は、ブラックストン博士の言に據れば、今日に於て他の三分の二より生ずる金額の二倍に近しと云へり。されば金錢に據れる大學の貸地料は、其規定當時に比して約四分の一に足らざる價值に下落せるなり。フリッブ王及マリア女王の時代より以來、英國貨幣は實際何等の變化を受けず、パウンド「シリング」ペンスの同數は常に殆んど同量の銀を有すること故、金額に依て規定せる大學貸地料の斯の如き下落は全く銀の下落に起因するなり。銀價の下落が、同名稱の貨幣中に含有さるゝ其分量の減少と結合するに當りては、其損失は更に大なり。英國に於けるよりも貨幣の上は大なる變動ありし蘇國に於て、又た蘇國よりも甚しかりし佛蘭西に於ては、古代に取極められたる地代にして、其當時に於ては相當の金額なりしものも、今日は殆んど何等の價值なき程の小額に下落し了りたるもの少からずとなり。

労働者の必需品たる同量の穀物は、金錢よりも、又た恐らくは他の何物よりも異なる時代に於て、勞力の比較的相等しき分量を購求することを得るなり。故に同量の穀物は、異なる時代に於て、比較的同一の實價を有するなり。即ち其所有者をして、他人の勞力の比較的同一の量を購求することを得せしむるなり。余は敢て比較的同一の量と云ふ、何となれば同量の穀物と雖も、決して正確に常に同量の勞力を購求し得るにあらざればなり。労働者の生計換言すれば、勞力の實價は時所の異なるに隨て異なり、其富の増進しつゝある社會に於ては、其靜止の狀にあるものよりは豊かにして、靜止の狀にある社會に於ては、其退歩しつゝあるものに比して豊富なりとす。而して他の物品は或一定の時期に於て、勞力が買ひ能ふ必需品の量に比例して、其多量若くは少量を買ふことを得るなり。されば穀物に依て規定されたる地代は、只だ一定量の穀物が買ひ能ふ勞力の量の變動に依て影響を受くる而已。されども他の物品に依て規定されたる地代は、一定量の穀物が買ひ能ふ勞力の量の變動に依て變ずる而已なり。

らず其物品の一定量に依て買はるべき穀物の量の變動に依ても亦た影響せられざるを得ざるなり。

一の世紀より他の世紀に渡る長期間に於ては穀物に依て支拂はるべき借地料の價は貨幣に依て支拂はるべき借地料の夫れよりも變動を受くること少しと雖も、年々の變動は更に大なるものあり。今後説明すべきが如く貨幣にて計れる勞力の代價は穀物の夫れと共に年々變動することなく。又た一時的發作的に變動せず、生活必需品の平均價即ち其普通の代價に調和を保つ傾向あるに似たり。而して穀物の平均價即ち普通の代價は銀價即ち銀を市場に供給する鑛山の豊否に依て左右さる。換言すれば鑛山より市場に銀の或分量を持來すに要せらるる勞力の多少随つて費消さるべき穀物の量に依て左右さるゝなり。銀の價格は一の世紀より他の世紀に渡る長期間に於て特に大なる變動を受くることあれども、而かも半世紀若くは一世紀に渡りて大なる變化を見ざることも奇らしからず。されば貨幣にて計れる穀物の平均價格も亦た

同様の長時期間大なる變化を受けざることあるべく、隨て其社會の存続せん限り、勞力の貨幣上の價格も同様の状態に止まることあるべし。是と同時に穀物の時價は僅に一年の間に二倍の高下あることすら奇らしからず、例へば一「クオーター」廿五志より五拾志に騰貴するが如し。されども穀物の價が五拾志なる時は、單に其名儀上の價格而已ならず、穀物にて支拂はるべき借地料の眞價格も亦た二倍となるなり。換言すれば勞力其他多くの物品の二倍量を購求することを得るなり。而して一方に於て貨幣にて計れる勞力其他の物品價格は依然として變動を受くることなきなり。

されば價格の最も精確なる尺度たり。凡ての時と所に於て諸物品の價格を比較し能ふ唯一の標準は勞力而已なること明白なりとす。一の世紀より他の世紀に渡る長期間に於ける諸物品の眞價格を、是がために拂はるる銀の量に依て算定する能はざるは論を俟たず。又た年々穀物の量に依て是を計算することも不可能なりとす。只だ勞力の分量に依て而已吾人は一年一年の期間に於

ても世紀より世紀に渡る長期間に於ても最も精確に是を算定することを得るなり。世紀より世紀に通じては穀物は銀より勝れる尺度なり。何となれば世紀より世紀に通じては同量の穀物は同量の銀よりも比較的同一に近き勞力の量を買ふことを得ればなり。是に反して一年一年の間に於ては銀は穀物よりも勝れる尺度なり。何となれば其同一量は穀物の同一量よりも比較的同一に近き勞力の量を買ふことを得ればなり。

永久の借地権を規定する場合には眞價格と名儀上の價格とを區別するの必要あれども、人生に於ける一層普通尋常の行爲たる賣買の場合には固より斯の如き必要なきなり。

時所を同ふする限り、凡ての物品の眞價格と名儀上の價格とは精確に相比例するものなりとす。例へば倫敦市場に於て一の物品に向て支拂はるべき金銭の多寡と、是に依て買ひ得る勞力の量とは必ず相比例するなり。故に時所を同ふする限り、金銭はあらゆる物品の眞交換價格の精確なる標準なりとす。而かも

必ず同時同所に於て而已なることを忘るべからず。

懸隔せる場所に於ては、物品の眞價格と金銭に由る價格との間に一定の比例なけれども、甲所より乙所に物品を運送する商人は其金銭上に於ける代價以外のことを考ふることなし。即ち彼等は只だ是を買ふ時の金銭の量と是を賣らんとする時の夫れとの差額を思考するに止まるなり。廣東に於ける半オンスの銀は倫敦に於ける一オンスよりも多くの勞力と物品を買ふことを得べし。故に廣東に於て半オンスの銀を以て買はるべき物品は、其地に於て是を所有する人に取りては、倫敦に於て一オンスに價ひする物品が、其所有者に對するよりも一層大なる實價を有するなり。されども倫敦商人にして、廣東に於て銀半オンスを以て買へる品物を、倫敦に於て一オンスに賣ることを得ば、彼は僅かに二倍の利益を得たるにて、廣東に於ける半オンスは倫敦の一オンスよりも多くの勞力と物品を買ふことを得るや否やは敢て隔する所にあらず。倫敦に於ける一オンスは其半オンスに對して常に必ず二倍の効果を有するが故

に彼は是を以て満足することを得るなり。

夫れ斯の如く凡ての買買取引に於て、其最後の判断を要する所のものは全く物品の名儀上の代價即ち貨幣の代價なり。代價に關係する人生一切の行爲は主として是に依て支配さるゝなり。世人の注意が物の眞價に對するよりも、多く是に向て集まるは固より怪むに足らざるなり。

第六章 物價の組成分

資本の未だ蓄積せられず、土地の未だ私有せられざる元始の社會に於ては、他の物品を交換するに際り、其標準となるべき唯一の事情は、其物品を得るに要する勞力の多少なりき。例へば狩獵を業とする社會に於て、一頭の海狸を獲るに要する勞力は、一頭の鹿を獲るに比して二倍なりとせば、自然に一頭の海狸は二頭の鹿と交換せらるゝなり。二日若くは二時間の勞作を要する品物が、一日若くは一時間にて成し得べき物品の二倍に價みするは當然のことなり。

然れども一の勞作の性質が他の勞作に比して、困難なる時は二者の間に自然に多少の讓歩を來さざるべからず、而して其一時間の勞力は他の二時間の勞力と交換さるゝこととなるなり。

若又其業務の性質にして、特別の熟練と思慮とを要する場合には、是に費やされたる時間の割合に比して多くの代價を拂はるゝに至るは固よりのことなり。永き間の熟練によらざれば、得る能はざるが如き、技倆を要する業務に依て生産されたる物品に對して拂はるゝ特別の價格は、多くは是を習得するに要する時間と勞力に對する相當の報酬に過ぎず、進歩せる社會に於ては、業務の困難と熟練に對する報酬は、其勞働の給料に於て特別の支拂を受くるを常とす。未開の社會に於ても何等かの方法に依て相當の斟酌鹽梅を加へられたることは想像するに難からず。

斯の如き状態の下にありては、勞働より生ずる生産物の全部が勞働者に屬する状態を云ふ、或物品を獲得、若くは生産するに要したる勞力の多少こそは、其

是に依て購買し、左右し、若くは交換せんとする勞力の分量を支配する唯一の事情たるなり。

然るに一度び或特種の人々の手に資本の蓄積せらるゝや、自然の結果として其或者は他の勤勉なる人々に材料と生活費とを供給して、是をして勞働せしめ、自らは其作業に成れる物品を賣り、若くは其材料の價值を増さしむること、に依て利益を得んとするに至るなり。斯くて其出來上りたる物品を金錢、勞働、若くは他の物品と交換するに當り、原料と給料とを支拂ひたる丈にては充分なる能はず、尙危険を冒して資本を提供したる企業家に向て何物をか與へざるべからざるなり。されば此場合に於て勞働者が原料に附加したる價值なるものは自ら二箇の部分に別るゝなり。一は彼等の給料となり、他は彼等に原料を給し、豫め其給料を拂ひたる資本家の利益となるなり。資本家は其雇用する勞働者の手に成れる製作品を賣りて、其提供したる資本を回收したる上尙幾何かの利益あるにあらざれば、危険を冒して資本を供するものあるべからず。

而して其利益の多少が資本の大小に比例するにあらざる以上何人も好んで大資本を提供するものあるべからざるなり。或人謂へらく資本に對する利益なるものは、畢竟するに監督指揮特種の勞力に對する給料たるに過ぎずと。然れども此は全く種類を異にせるものにて、異なる原理に依て支配され、彼の所謂監督指揮の勞力なるものゝ分量、難易若くは巧拙等と更に相關する所なく、全く使用されたる資本の價值に依て支配されるゝを見る。即ち其利益の大小は資本の大小に比例するなり。例へば茲に普通製作業に於て毎年一割の利益を擧げ得べき一地方に二箇の異なる製作業あり、各一年百五十圓の給料にて貳拾人の勞働者を使用すると想像せよ、即ち毎年三千圓の費用を勞働賃金に支拂ふと假定せよ。而して又た一の製造所に於ては粗製品を製造して、毎年七千圓の費用を要し、他の製造所に於ては精製品を製作して、毎年七萬圓の費用を要すと想像せよ。此場合に於て一の製造所に於ては毎年一萬圓の費用を要するに過ぎざるに反し、他の製造所に於ては七

萬三千圓を要するなり。されば年一割の利益とすれば、一の製造家は毎年一千元の利益を所期し、他は七千三百圓の利益を所期すべきなり。其利益の斯の如く甚だしく懸隔するに拘らず、其監督指揮の勞に至ては全く異なる所なきが、或は極めて僅少の相違に過ぎざることあるべし。多くの大製造所に於ては此種の業務は重立たる書記の或者に委任されつゝあり。されば此指揮監督の價値なるものは彼れが受くる俸給に依て最も適當に表示されたりと云はざるべからず。尤も斯る場合には管に彼が勞力と熟練に對して而已ならず、彼の上に置かれたる信任に對しても相當の報酬の拂はるゝが常なりと雖も、而かも彼が監督する資本の多寡に比例して増減すると云ふが如きことは決して是あらざるなり。是に反して資本家自身に於ては殆んど何等の勞役にも服することなしと雖も、彼は其利益の資本の額に比例せんことを豫期するなり。されば物品の代價中に於て、資本の利益なるものは、給料とは全く別種の組成分に屬し、全く異なる原理に依て支配さるゝなり。されば斯る事情の下に於ては勞

働の結果たる生産の全部は必ずしも勞働者に屬せず、多くの場合に於ては勞働者は彼を使用する資本家と共に其利益を分たざるを得ず。又た或物品を獲得若くは生産するに要したる勞力の分量而已が他の勞力を購買し、左右し、交換せんとするに當りて、其唯一の標準たること能はず。給料を前拂し、原料を供給したる資本に對する利益を其勘定に加へざるべからざること甚だ明瞭なりとす。

國の土地が悉く私有財産となるや否や、地主も亦た一般人と同じく自ら蔭かざりし所のものを刈り取らんことを望み、天産物に對してすらも地代を要求するに至るなり。森林に生ずる樹木野の草、野生の菓物等は、土地公有の時代に當りては、只だ是を採收するの勞而已を以て何人も是を享有することを得しが、今は何れも一定の代價を有することとなりぬ。されば是を採收せんと欲する者は其許可狀を得んがために金錢を拂はざるべからず。隨て其採收物を金錢勞働若くは他の物品と交換せんとするに當りては、採收の勞と資本に對

採收
資本に對する利益
地代

する利益とを償ふを以て足れりとせず、地代即ち許可状の代金をも勘定に加へざるべからざるなり。斯くの如くにして、地代は多くの物品の価格を組成する第三の要素となるなり。先づ是を採收せんがために其許可證の代償を拂はざるべからず、而して其勞働に依て採收し、若くは生産したる物品の一部分を地主に供せざるべからず、此部分或は此部分の代償が即ち地代となるにて、多くの物品の代償中に於て其第三要素となるなり。

(斯る情態の下にありては、或物品を獲得若くは生産するに要する勞力の分量、并に給料を前拂し、原料を供給したる資本の利益而已が是に依て購買し、左右し、若くは交換さるべき勞力の分量を支配する事情なりと云ふべからず、第三の事情として地代をも勘定に加へざるべからず、而して是を市場に持來す者をして此地代を拂ふことを得しめんがために、其物品は勞力と資本の利益を償ふより、二層多くの勞力と交換されざるべからざるなり。)

(一) 此一段を省略して前段末尾の文を再び挿入したるは、思ふに千七百七十六年四月一日

ヒエームより贈れる書翰中の批評に起因するならん、批評に曰く「若し君が今此處に余が爐邊に居らるゝならば、余は君の主張の或者に就て論議せざるべからず、余は地代が其生産物の代償の一部分を成すと云ふことを信する能はず、生産物の代償は全く需要と供給の關係に依て定まるものなるを信す」

物價の組成分の眞價は彼等が購買若くは左右し能ふ所の勞力の分量に依て測定せらるゝことを注意せざるべからず、蓋し勞力の部分而已ならず、地代及び利益より成立する部分と雖も其眞價を測定するものは勞力たるなり、何れの社會に於ても物品なるものを分析すれば、以上の三要素か若くは其中の何れかに歸せざるべからず、而して凡て進歩せる社會に於ては、大多數の物品は其代價の組成分として、分量の多少こそあれ、此三要素の合蓄さるゝを發見すべきなり。

試に是を穀物の價に徴せよ、一部は地代として地主に拂はれ、一部は勞働者の支給並に家畜の飼養料として拂はれ、其餘は即ち農夫の利益となるなり。斯の如く穀物の全價格は以上の三部分より成立するを知るべし、人或は謂へらく、

家畜又は農具の損耗を補充する等の如き資本回復のため第四の部分を要するにあらすやと。然れども是皆な以上の三者の中に含有せらるゝなり。列へば農業に使用する馬匹に就て是を云はんか。是を飼養するに要する土地の地代、其飼育に要する勞力並に是等の費用を前拂せる農夫の利益等何れも皆既に前の三者中に於て支拂はれたるを知るべし。されば縦令馬匹の代價並に其飼養料が穀物の代價に依て支拂はるゝ者とするも、直接に或は間接に遂には地代勞力利潤の三者に歸するを見るなり。

麥粉の代價に於ては、麥の代價に製粉者の利益と其使用人の給料を加算すべく、麵麩の代價に於ては、パン屋の利益と其使用人の給料を是に加算すべく。又た農家より製粉者の家迄穀物を運び、製粉者の家よりパン屋に麥粉を運ぶ勞力と其勞働者の給料を前拂せるに對する利益を加算せざるべからざるなり。麻の代價を分拆すれば穀物と同じく亦た三部分より成立するを見る。されども「リネン」の代價に於ては、以上の外精麻者、紡績者、織夫、漂白者並に是等勞働者

の使用人に對する利潤を加算せざるべからざるなり。

是を要するに、如何なる物品にても其精製の度を加ふる毎に、其代價中地代たるべき部分に比して、給料並に利潤たる分部の額を増加するなり。製造の階段を重ねるに隨て、其利潤の數を増す而已ならず、其利潤の額も亦た次を逐ふて増大するなり。何となれば利潤の依て生ずる資本の額を増加するに由るなり。是を例すれば織夫を雇用する資本は紡績者を雇用する資本よりも大ならざるべからず。何となれば筒に其利潤を以て資本を回復するを要する而已ならず、亦た織夫の給料をも支拂はざるべからず。而して利潤は必ず資本の額と比例を有せざるべからざればなり。

されども最も進歩せる社會に於ては、常に勞力に對する給料と資本に對する利潤との二部分而已にて成立する、僅少の物品あり。而して更に少數の物品は勞力に對する給料而已にて成立するなり。例へば海魚の代價に於ては、其一部は漁夫の勞銀となり、其餘は漁獵に要する資本に對する利潤となり、地代の是

に入ることは極めて稀なり。尤も時としては漁獲に地代を要することも是なきにあらず。歐洲の大部分に於て河川の漁獲には地代を要するなり。例へば鮭の漁獲の如き是なり。或は正當に土地と云ふ能はずとするも、兎に角其漁獲の場所に對する料金は給料及び利潤と共に、鮭の代價の一部をなすなり。蘇格蘭の或海邊に於ては、俗に蘇格蘭石と稱する小石を採取する貧民あり。彼等が是を石工に賣りて得る所の代價は、全部彼等の勞銀にして、地代も資本に對する利潤も全く關係することなきなり。

要するに如何なる物品の代價も、是を分拆すれば遂には以上三者の中の一部若くは二部時としては其全體即ち三部分に歸するなり。蓋し地代と栽培製造運送等の勞銀を拂ひたる殘餘は必ず何人かの利潤となるべければなり。斯の如く各物品の代價即ち交換價格は、一々以上の三部分乃至は其中の一二部分より成立するものなるが故に、是を全體として考ふれば、一國民が年々其勞働に依て生産する凡ての物貨は必ず以上の三部分より成立せざるべから

ず。而して給料、利潤、並に地代として國內の種々の階級間に分配さるゝなり。各社會の勞働に依て年々採收若くは生産さるゝ凡ての者、即ち其全代價は斯の如くにして、始めて各階級の間に分配さるゝなり。されば給料、利潤、地代の三者は一切の收入並に一切の交換價格の本原にして、凡て他の收入は是等の三者若くは其中の何れかより出で來るに過ぎざるなり。

何人にも其所有の財産より收入を得るものは、必ず其勞働、其資本若くは其土地よりするなり。而して其勞働によりて得る收入を給料と稱し、自ら其資本を運用して得る所の收入を利潤と稱す。而して自ら其資本を運用せず、是を他人に貸して得る所の收入を利息若くは金錢の使用料と稱するなり。是れ即ち金錢の使用に依て得たる利益に對し、借主より貸主に與ふる報償なりとす。利益の一部分が危険を犯して是を使用したる借主に屬し、一部分が他人をして利益を得るの機會を得せしめたる貸主に屬するは自然の成行なるべし。利息は常に從生的の收入なり。若し金錢の使用に依て得たる利益の中より拂はる

るにあらざれば、他の収入より拂はれざるべからず。若し然らずとすれば、其借主なるものは浪費者にして、利息を拂はんがために、更に新なる負債を起すものと見做すの外なきなり。土地より生ずる収入は即ち地代にして、地主に屬するなり。農夫の収入は一部分其労働より生じ、一部分は其資本より生ずるなり。土地は彼に取りて、其労働賃金と、資本に對する利益とを得せしむる一の器械に過ぎず。是を要するに、一切の租税及び夫より生ずる一切の収入並に凡ての給料諸種の年金等何れも皆な其本原に溯れば、以上に列擧せる三種の収入より生ずるものにして、間接直接に給料、利潤及び地代より支拂はるゝなり。是等の異なる収入が各別人に屬する場合には、是を區別すること容易なれども、三者悉く同一人に屬する場合には、屢混淆を來すことあり、少くとも普通の言語に於て然るを免かれざるなり。

此處に一人あり、其所有地の一部分を耕作すると假定せよ、而して其収入は其耕作に要せる費用を支辨し終りて、尙地主としての地代と、農夫としての利益

を剩すと假定せよ。彼は其全収入を利益と稱すべし、斯くて地代と利益とを混淆するなり、少くとも普通の言語に於て然りとす。吾が北米並に西印度諸島の農夫の大部分は斯る情態にあり、彼等の多くは自己の所有地を耕作するものなるが故に、吾人は彼等が其利潤に就て語るを聞けども、其地代に就て語るを聞くこと甚だ稀なりとす。

普通の農家に於ては、其農業上の事務を指揮せんがために監督者を雇用するが如き場合稀なる而已ならず、自ら其手足を勞して田園に勞作するもの多し。されば其收穫の中より、地代を拂ひ、資本を回収し、相當の利益を控除するも、尙ほ彼のために監督者、労働者としての給料の殘存するを見るべし。されども地代を拂ひ、資本を回収したる上の殘餘は凡て是を利益と稱するを常とす。此場合に於ては、明かに給料は利益の中に混淆しつゝあるなり。

又た此處に獨立の一製造家ありて、材料を購求し、且つ其製品を市場に出す迄自ら支給するの資本を有すると假定せよ。彼は備主の下に労働する職工の給

料と職工の手に成る製品を賣却して得る傭主の利益と兩つながら是を得べし。されども普通に彼の収入の全部を稱して利益と云ふなり。此場合に於ても給料は利益とは混同しつゝあるなり。

自ら其所有に係る庭園に栽植する園丁にありては、一身に地主地主、農夫、労働者の三資格を具備するなり。されば其収入は地代と利潤と給料の三者より成立すれども、普通に其全體を彼の勞銀と見做すを常とす。此場合に於ては地代と利潤とは給料の中に混同しつゝあるなり。

文明の國に於ては、勞働而已に由て其交換價格の生ずる物品は極めて僅少の數に過ぎず。其大部分は地代及利潤に依て大に影響せらるゝものなるが故に、年々勞働に依て産出する物品類は、其物品を生産し、是を市場に持ち來すに要するよりも多くの勞力の分量を購買することを得るなり。勞力の分量なるものは年々非常に増進する者なるが故に、若し社會が年々其購買し得る全勞力を使用するものとせば、物品の産額は毎年非常の勢を以て増加すべき筈なり。

とす。然れども何れの國に於ても、其生産物の全部を殖産事業に使用すると云ふは絶へてあることなく、其大部分は不生産者のために費消さるゝなり。而して其生産的に使用さるゝ額と、不生産者に依て浪費さるゝ額との比例に由て、一國の富は或は年々増加し、或は減少し、或は靜止の情態を保つゝの相違を生ずるなり。

第七章 物品の自然價格と市價

一箇の社會若くは其附近に於ては、勞働賃金及び資本に對する利潤の普通價格即ち平均相場なるものあり。而して此相場なるものは其一部は社會の一般情態、即ち富めるか、貧しきか、進歩しつゝあるか、靜止の情態にあるか、抑も亦た衰微しつゝあるか等の事情によりて支配され、他の一部は其勞働若くは資金の使用せらるゝ、特種の性質に依て自然に左右さるゝなり。此事に關しては、後段に詳説すべし。

是と同じく一の社會若くば其附近には、地代の普通價格若くば平均相場と稱すべきものあり。而して其高低は一は其土地の存在する地方の一般情態に依て支配され、一は天然若くば人工に由れる。其土地の肥腹に依て定まるものとす。此點に關しても後段更に論證する所あるべし。

此普通價格即ち平均相場なるものは、其給料、利潤、地代の存在する一定の時代と場所に於ける是等の自然價格なりと云ふことを得べし。

物品の代價が恰かも是を生産し、市場に持ち來すに必要な地代、勞力、利潤を支拂ふに足り、更に過不足なき場合には、其物品は其自然價格に於て賣買されると云ふなり。

此場合には該物品は正しく其價值の通りに賣買されたるなり。換言すれば是を市場に持ち來せる人が其物品に對して要せる實際の價格に於て賣買されたるなり。何となれば、普通に使用さるゝ言語の意味に於ては、物品の原價と云へば、再び是を賣却せんとするものゝ要する利潤を包含せざるの習慣なれど

も、彼若し其社會に於ける普通の利潤をも得る能はざる價格に於て賣却すれば、彼は儘かに其商業に依て損失を招くものと云はざるべからず。彼若し其資本を他の事業に使用したらんには、相當の利潤を得べかりしなり。豈管夫而已ならんや、利潤は彼に取りて正當なる生活の費用なり。彼が物品を生産し、是を市場に持來さんとするに當りて、其職工の給料と生活費を豫め支給するが如く、亦た彼れ自身のために必要の生活費を支辨するなり。而して此生活費なるものは正當に其物品の賣却に依て得らるべき筈なり。若し此利益を得ること能はずんば、彼が其物品に對する實際の所要を回收したるものと云ふこと能はざるなり。

されば彼をして、以上の利潤を得せしむるに足るべき代價は、決して彼が時として賣却することあるべき最低の代價にあらず。彼が幾度にも、其職業を變更するの自由を有する場合に於て、彼が相當の時期間、引續きて賣却するも、差支なしとする、代價の最低なるものなりとす。

凡ての物品が普通に賣却さるゝ實際の代價を市價と稱す。市價は自然價格よりも、高きことあり、低きことあり、時としては、全く同等のことありとす。各種物品の市價は實際市場に持ち來さるゝ其分量と物品の自然價格即ち是が生産に要する地代、勞銀、並に利潤の全部を支拂ふことを躊躇せざる需要者間の比例に由て左右せらる。此の種の人々を經濟學上効果ある需要者と稱し、其需要を効果ある需要と稱す。何となれば、凡ての物品は此種實際の需要に由て市場に持ち來さるればなり。効果ある需要は絶體的需要と異なり、貧民も或意味に於て、馬車を需要すと云ふことを得ん、彼等も儘かに是を所有せんことを希望するなり。然れども斯の如き需要は効果ある需要と云ふことを得ず、何となれば、此需要を満たさんがために、馬車の市場に持ち來さるゝことなればなり。

市場に持ち來さるゝ物品の分量が、効果ある需要、即ち其物品を市場に持來るに要する地代、給料、及利潤の全部を支拂はんと欲する人々の數に比して、不足する時は、彼等はその所要額を供給さるゝ能はず。是に於てか、彼等の或者は、全く其物品の缺乏に苦まんよりは、寧ろ更に多くの代價を支拂ふことを躊躇せざるに至らむ。斯くて彼等の間に直ちに競争を起し、市價は自然價格の上に昂騰するに至るなり。而して其昂騰の割合は、供給不足の大小、或は競争者の富又は奢侈の度の大小に由て生ずる。競争者の熱心の多少、由て決せらるゝなり。富と奢侈の度の同等なる競争者間に於ては、其物品が彼に對する重要な程度に隨ひて、熱心の度に厚薄を生ずるものとす。敵の重圍に陥るに際し、若くば饑饉の年に當りて、日常生活の必需品が、法外の高價に昇るは、此理に由るなり。市場に持ち來されたる物品の分量が、効果ある需要に超過する場合に於ては、其物品は是を市場に持來すに要する地代、給料、及利潤の全部を支拂はんとする人々に賣り盡す能はず。是に於てか、或部分は更に少額の代價を拂はんと欲する人々に賣却されざるべからずして、遂に全體の代價を減少せざるべからざるに至るなり。斯くて市價は自然價格の標準以下に降下せざるを得ず、而し

て其降下の度の多少は、過剰の大小に由て生ずる買却者の競争の程度、即ち其物品を直ちに手離すべき必要の程度に依て決するなり。腐敗し易き物品の過剰なる場合に於ては、永く保存し得べき物品の過剰なる場合に於けるよりも、其競争は一層劇烈なりとす。例へば密柑の餘分に輸入されたる場合には、鐵の過剰に苦む場合よりも、其貶賣者の競争の一層劇甚なるは固より云ふを俟たず。

市場に持ち來されたる物品の分量が、恰かも効果ある需要を満たす丈けに止まり、更に過不足なき場合には、市價は自然價格と全く同一なるか、若くば最も是に近き者となるなり。手中にある全體の物品は、此價にて悉く賣却することを得べし、而かも夫れ以上の代價を要求すること能はざるなり。貶賣者の競争は、彼等の凡てをして、此價に満足せざるを得ざらしむ。然れども其以下に安賣するの必要なきなり。

市場に持ち來さるゝ物品の分量は、自然に効果ある需要に適應するを常とす。

市場に持ち來さるゝ物品の分量が、効果ある需要に超過せざるは、是を市場に持ち來さんがために、土地資本、勞働を使用せる人々の利益にして、其供給の需要に比して不足なきは、他の階級に屬する人々の利益なりとす。

若し物品の供給が、効果ある需要に比して過剰なる場合ありとせば、其代價の組成分、即ち地代、勞銀若くば利潤の何れかに對する收入の割前は減少せざるべからず。若し地代の減少する場合には、世の地主等は、其土地の幾部分を、其使用より撤去すべく、若し給料或は利潤の給少する場合には、勞働者及び資本家は、其勞働若くば資本の一部を、其使用より撤去するに至らんなり。斯くて市場にある物品の供給は、應て効果ある需要に適應するに至るべく、而して其市價は自然價格と同様の標準に達すべきなり。

是に反して、市場に持ち來さるゝ物品の分量が、効果ある需要に比して、不足を告ぐる場合には、其代價の組成分、即ち地代、勞銀若くば利潤の何れかに對する、收入の割合を増加するに至るべし。若し地代を増加する場合には、何れの地主も、

争ふて其物品の生産のために土地を提供すべく若し勞銀或は利潤を増加する場合には、他の勞働者又は資本家の其事業に従事するに至り斯くて忽ちにして効果ある需要を満たすに至るべく其組成分に對する収益の割合は、自然の標準に復し其全代價は自然の價格に復するなり。

されば自然價格は實際に於て、中心的價格なり。凡ての物品の代價は、常に是に向て歸向せんとしつゝあり種々の出來事により時としては其以上に市價を釣り上げ又其以下に是を壓服することありと雖も斯の如きは畢竟一時の現象にして遂には其中心點に安定せずんば止まざるなり。

斯の如くにして、年々市場に物品を持來さんがために使用さるゝ工業の全分量なるものは、自然に効果ある需要に適應するに至るなり、需要と供給との間に些の過不足なく、全く調和を保たしめんこと、是れ實に自然の要求なりとす然れども事業に由りては、同一の作業に従事しながらも、年々歳々其産出を同ふせざることあり、或種の事業に至りては、年々の産出高殆んど相同じきこと

あるも亦明なり、農業に於ては、同數の勞働者を使用するも、年々收穫する穀物、野菜、葡萄酒等の分量は決して同一なること能はず、是に反して、紡績又は機械場に於て同數の職工を使用すとせば、年々産出する糸若くは織物の量は、畧相等しと云ふことを得べし。論じて是處に至らば前きに謂ふ所の供給の効果ある需要に適應すると云ふことは、或る産業の平均的生産に關することなるを知るに足らん、其の實際の生産額に至つては、年々其の平均額より多きことあり、少きことあり、隨て市場に持來さるゝ物品の量も、効果ある需要に對して、過剰なることあり、又た時としては、不足あることを免かれず、是故に假設需要は常に同一なりとするも、其市價は常に動搖あるを免かれず、時としては、自然價格に比して、遙かに高きことあり、時としては、其以下にあることあるなり、他の年々歳々其産出物の同一若くば同一に近き産業に於ては、其供給は能く其實地の需要と調和することを得るなり、されば其需要の情態の同様ならん限り、物品の市價も亦た動搖せず、概して自然價格と同様の地位に留まるなり、リネ

ン又は毛織物の代價が、絨物の代價に比して、變動の少きは世人の普く知る所の事實なりとす。要するに或物品の代價は、需要の變動而已に由て高下し、或他の物品は、需要の變動と共に變する而已ならず、更に其需要に應せんがために、市場に持來さるゝ物品の分量に由て左右さるゝなり。

市價の一時的變動の結果は、主として給料及利潤の上に影響を及ぼし、其地代の上に與ふる影響は甚だ輕微なりとす。貨幣にて算定したる地代の額に至ては、其割合に於ても、其價值に於ても、是がために殆んど左右さるゝ所なし。生産物の一定の分量より成れる地代に至ては、固より市價の變動に由て、其價值に増減あるは、免かるべからざる所なれども、其年々の割合に至ては相異なることなきなり。されば地主と小作人が、其借地の條件を訂結するに當り、彼等は永年の經驗に由り、變動ある一時的の相場によらず、其生産物の平均價格即ち通常價格によらむことを勉むるなり。

一時的の市價の變動は、市場に物品の潤澤なりや否や、又は勞力の容易に供給

さるべきや否やとに隨て來るものにて、給料及利潤の上に影響を與ふるなり。國葬の場合には、黒布の代價暴騰し、斯る場合には市場に品物の不足するを常とす。多額に是を所有する商人をして、暴利を得せしむれども、更に織工の給料に影響することなし。何となれば市場に欠乏せるは現品にして、勞動力にあらず。既成の勞力に欠乏せるなり、是よりなさんとする勞力の欠乏にあらず。被傭裁縫者の給料は、是がために増加すべし、市場は其種の勞働者の不足を感ずればなり。即ち市場に於て、此種勞働者に對する効果ある需要あるなり。而して一方に於ては、他の染色を有する絹物及び其他の織物は、下落すべく、隨て多額に是を所有する商人等は、損失をなすべし。斯くて是等の物品を生産せんがために、使用せらるゝ勞働職工の賃錢は、下落せざるを得ず。蓋し六ヶ月若くば十二ヶ月間、是等の物品に對する需要は、全く杜絶されざるべからず。市場は其物品と勞力の過剰に苦めるなり。

斯の如く凡ての物品の市價は、常に其自然價格に向て歸向するの傾向ありと

雖も、而かも時としては不時の出来事により、時としては自然の原因により、時としては警察規則によりて、長く市價を自然價格の上に釣り上げる事あるなり。

實際需要の増加に由て、或種物品の市價の昂騰する時は、是が生産に従事する者は、是を秘密に附するを常とす。若し其事實にして、一般世間に知れ渡るに至らば、幾多の新競争者を誘起し、忽ちにして市價は自然價格に復すべく、時としては其以下に降ることあるべきなり。尤も是を供給する人々の住所と、市場との距離が甚だ遠隔なる場合に於ては、長く其秘密を保つこと不可能にあらず。而して資本家等は、是に由て、法外の利益を壟斷することを得るなり。然れども斯のごときことは、實際稀有の場合にして、法外の利益なるものは永續する事となきなり。

製造業に關することは、商業に關することよりも、其秘密を保たんこと容易なり。此處に一の染物屋ありて、是迄世間に用ゐられる材料の半額の價にて足る

べき、新材料を以て、或種の色彩を染め得るの法を發明したりとせよ、彼は其生存の間其利益を受け得る而已ならず、遺産として是を子孫に傳ふることを得るなり。正當に云へば、彼が得る非常の利益は、其勢力に對する給料なり。然れども其資本に關係を有するの故を以て、通常資本より生ずる非常の利益なりと見做さるゝなり。

斯の如くにして、市價の遙かに自然價格の上にあるは、慥かに一種特別の出来事より生ずるものなれども、其結果は頗る長時期に涉ることを得るなり。

或種の天然物は、特異の土地と位置とに限られたるものありて、其國內に於て、其生産に適する土地の全部を、是に提供するも尙以て、實際の需要を滿たすに足らざることあり。是故に其の市場に持ち來さるゝ物品は、残らず、其生産に要する地代、勞力、利潤以上の市價を以て賣捌かるゝを得べく、且つ數世紀間を通じて、其市價を保つことを得るなり。此場合に於て、其特別の收入を持來すものは、云ふ迄もなく、其地代なりとす。佛蘭西の或地方に於ける葡萄園の如く、全

雖も、而かも時としては不時の出来事により、時としては自然の原因により、時としては警察規則によりて、長く市價を自然價格の上に釣り上げることあるなり。

實際需要の増加に由て、或種物品の市價の昂騰する時は、是が生産に従事する者は、是を秘密に附するを常とす。若し其事實にして、一般世間に知れ渡るに至らば、幾多の新競争者を誘起し、忽ちにして市價は自然價格に復すべく、時としては其以下に降ることあるべきなり。尤も是を供給する人々の住所と、市場との距離が甚だ遠隔なる場合に於ては、長く其秘密を保つこと不可能にあらず。而して資本家等は、是に由て、法外の利益を壟斷することを得るなり。然れども斯のごときことは、實際稀有の場合にして、法外の利益なるものは永續することなきなり。

製造業に關することは、商業に關することよりも、其秘密を保たんこと容易なり。此處に一の染物屋ありて、是迄世間に用ゐられる材料の半額の價にて足る

べき、新材料を以て、或種の色彩を染め得るの法を發明したりとせよ、彼は其生存の間其利益を受け得る而已ならず、遺産として是を子孫に傳ふることを得るなり。正當に云へば彼が得る非常の利益は、其勞力に對する給料なり。然れども其資本に關係を有するの故を以て、通常資本より生ずる非常の利益なりと見做さるゝなり。

斯の如くにして、市價の遙かに自然價格の上にあるは、慥かに一種特別の出来事より生ずるものなれども、其結果は頗る長時期に渉ることを得るなり。

或種の天然物は、特異の土地と位置とに限られたるものありて、其國內に於て、其生産に適する土地の全部を、是に提供するも尙以て、實際の需要を満たすに足らざることあり。是故に其の市場に持ち來さるゝ物品は残らず、其生産に要する地代勞力利潤以上の市價を以て賣捌かるゝを得べく、且つ數世紀間を通じて、其市價を保つことを得るなり。此場合に於て、其特別の收入を持來すものは、云ふ迄もなく其地代なりとす。佛蘭西の或地方に於ける葡萄園の如く、全

く一種特異のものにして、其附近に於ける同様に能く開墾されたる肥沃の土地に比して、格外なる地代を得るなり。是に反して労働者の給料及び資本に對する利潤等は、其附近に於ける勞銀の利潤に比して、決して多きこと能はざるなり。

右の場合に於ては、市價の自然價の上にあるは、全く天然の原因にありて、需要に隨て供給を増加せんとするも不可能のことなれば、其法外の市價は何時迄も持續せらるべきなり。

一箇人若くは一の會社に對して、專賣權の特許されたる場合に於ては、其結果は商業若くは工業上の秘密に於けると相等し、專賣權を有するものは、常に物品の供給を手控へて、充分供給に應ずる程に達せしめずして、其市價を自然價の上に保ち以て其収入の多からんことを勉むるなり。

專賣品の代價は常に得能ふ限りの最高價なり。是に反して自然價即ち自由競争に由て定まる代價は、賣手が相當の時期を通じて、賣却し得る最低の代價な

りとす。一は常に買手より搾り得る限りの最高の代價なり。即ち買手が拂はんと欲する最高の代價なり。他は賣手が其商業を持續して、通常手離し得べき最低の代價なりとす。

會社の特權、徒弟に關する規則、其他凡て或種の職業に關して、其競争を小數の範圍内に制限せしむるが如き法律規則は、其程度こそ異なれ、同一の傾向を有するものとす。要するに彼等は範圍の廣き一種の專賣なり、或種の全職業を通じて、或時期の間、特種の物品の代價を其自然價の上に保たしめ、其給料と利潤とをして自然の相場以上に保たしむるなり。而して其法律規則の改廢せられざる限り、此事情は存續するなり。

物品の市價は長く其自然價以上に留まることを得べしと雖も、決して長く其以下に留まることあらず。何となれば生産者は是がために、損失を蒙るが故に、直ちに是がために今迄使用し居たる、土地勞力及資本を撤去すべく、斯くて忽ちにして、供給は需要を滿たすに足らざるに至り、隨て市價は其自然價の標準

に上らざるを得ず。是れ少くとも、完全なる自由競争の行はるゝ場合に於ける、必然の作用なりとす。

尤も同一の徒弟規則及び會社に關する法律の下にありても、工業の隆盛なる時は職工の給料は其自然の標準以上に昇るべく、是に反して、其衰退に屬する時は其以下に降ることあるべし。前の場合には職工を雇使せんとするものは多く、是に應ずるものは少く、後の場合には、職を求むるものは多く、是を使用するものは少きなり。然りと雖も斯の如き作用に由りて、給料の自然の標準以上に保たるゝ期間は長時期に涉ることあるべしと雖も、其以下に沈淪すること、は、決して長期に涉るを得ず。前者の場合は時としては數世紀間に涉ることあるべく、而かも後者の場合は長くも工業隆盛の時期に養成されたる職工の生命より長く持続すべきにあらず。彼等の去りたらん後は、其職業に教育されたる職工の數は、自然に實際の需要に適應することゝなるなり。

以上説明する所により、一時的にせよ、或は永久的にせよ、市價の自然價を離る

るに至る所以の理を、明かにし得たりと信ず。

自然價は又た夫れ自身、其組成分なる地代、給料、利潤の自然的標準を相距ることあり、而して其標準なるものは、其社會の事情即ち其進歩的なりや、退歩的なりや、若くは停止的なりや、及其貧富の程度に依て決す。次の四章に於て、吾人は是等の原因事情に就て、説明する所あらんと欲す。

第一に吾人は自然に給料の標準を定むる事情は何ぞや、又た如何にして是等の事情は、社會の貧富の程度及其進歩的なりや、停止的なりや、將た退歩的なりや等に由て、影響せらるゝかを説明せんと欲す。

第二吾人は利潤の標準を定むる事情は何ぞや、又た如何にして是等の事情は、社會の情態の變するに隨て、變化するやを究めんと欲す。

各種の職業に於ける勞銀と利潤とは、其金錢上の計算に於て、頗る大なる相違ありと雖も、而かも其間に一定の比例あるを常とす。此比例なるものは、一は其職業の性質により、一は其社會の法律及び政策に由て變するものとす。社會の

貧富及び其進歩的なりや、退歩的なりや、靜止的なりや等に由て左右さるゝことは寧ろ輕小なりと云ふべく、是等の異なる事情の間にありて、殆んど一定の比例を有するを見るなり。されば吾人は第三に此比例を決定すべき種々の事情に就て研究する所あらんと欲す。

第四に吾人は地代を決定する事情、即ち其土地より生ずる實價を高下する事情に就て論せんと欲するなり。

第八章 勞銀論

勞働よりの生産は、自然的報酬即ち勞銀を組成す。

土地の未だ私有せられず、資本の蓄積されざる原始の情態に於ては、勞働より生ずる總ての生産物は、悉く勞働者の所有に歸し、是を分配するの地主若くは傭主なるものあることなきなり。

若し此情態にして永續したらんには、彼の分業法によりて、生産力の増加する

と共に勞銀は増加したるならん而して、凡ての物品は漸次廉價になりしならん。彼等は勞力の比較的小なる分量に依て生産せらる。而して原始の此状態に於ては同量の勞力に依て生産されたる物品は互に交換され得るが故に、同じく比較的小なる分量に依て生産されたる物品を以て購買することを得るなり。

然れども勞働者が勞働の一切の結果を領有し得る原始的の情態は、土地の私有せられ、資本の蓄積さるゝに至りし後は、復た存積すること能はざりき。されば斯る情態は勞働の生産力が相當の進歩をなしたる遊き以前に於て早く既に廢滅に歸したるものと見るべく、隨て其報酬即ち勞銀の上に與ふる影響の如何なりしかを穿鑿するは、無用の事なりと云はさるべからず。

土地が私有財産となるや否や、地主は直ちに勞働者が土地の上に作り、若くは是より收穫する一切の產物に對して其分け前を要求するなり。斯くて地代は其土地の上に使用されたる勞働の生産中より、先づ第一に引き去らるゝなり。

土地を耕耘する者が其收穫時迄自ら其生活を支持する場合は寧ろ稀なり、通常其生活費は其備主即ち彼を使役する農夫に由て支辨さる。然れども彼若し其勞働の結果の分け前を得、其支辨したる資本に利潤を添へて返却さるゝにあらざれば、誰か好んで斯の如きことをなすものあらんや。されば此利潤なるものは、土地の上に試みられたる勞働の結果より引去らるべき第二の分け前なりとす。

要するに殆んど凡ての勞働なるものは、右の如く其結果より資本に對する利潤を引き去らるべき運命を有す。如何なる技術又は製造業に於ても、勞働者の大部分は、其仕事の完成せらるゝ迄、其の生活費と材料とを供給する備主を要せざる能はず。是に於てか彼れ備主は勞働者が勞働の結果、即ち材料の上に加工されたる價值に對して相當の分け前を要求す。是を其利潤とは云ふなり。勿論時としては、職工にして自ら其材料を購求し、又た其仕事の完成さるゝ迄、其生活を維持し能ふ獨立のものなきにあらず。此場合に於ては、彼は備主と

職工との兩者を兼ねる者なりと云はざるべからず。其勞働の結果、其材料の上に加工したる全價值を獨占するは固より其所なりとす。彼の収入は通常二人の手に歸すべき二種の性質を異にするものより成る。即ち一は資本に對する利潤にして、他は勞働に對する給料なりとす。

然れども斯の如きは寧ろ稀有の場合にして、歐羅巴の全體を通じて、獨立の職工は備主の下に働ける職工の二十分の一に過ぎず。而して何くにも、勞働賃銀と云へば、勞働者と資本の持主と別人なる場合に於ける、勞働者の収入として理解さるゝなり。

何くにも於ても、勞銀の額は、互に利害を異にする二箇の當事者間の契約に由て決定さる。勞働者は出來得るだけ多くを得んと欲し、備主は成るべく少く與へんと欲す。前者は給料を値上げせんがために結合し、後者は是を低減せんがために同盟するなり。

而して通常の場合に於て、以上の二者中何れか最も便宜の地位に立ち、他をし

て其申出に服従せしむるかは問はずして明なり。僱主の數は僅少なるが故に、結合するの便多きのみならず、法律も亦た労働者の團結を禁するに關らず。僱主の結合を認定し、少くとも是を禁することをせざるなり。労働賃銀を低下せんがための結合を禁する法律はなけれども、是を値上げせんがための團結に對しては、種々の法律ありて是を禁止せり。加之是種の爭論に際して、僱主側にありては持久の策を講ずること左程困難にあらず。地主、耕主、製造家、商人等は假令一人の労働者を使用せずとも、其是迄得たる所により、一年二年の生活を持續せんこと決して困難にあらざれども、労働者に至りては一年二年は儲措き、一週間たりとも職業なしに生存し能ふものは甚だ多からざるなり。長き歲月の間には、労働者の其僱主に必要なるは、僱主の労働者に必要なると異なることなしと雖も、其必要たるや、爾かく直接火急にあらざるなり。世人往々にして、労働者の團結を聞くことは屢なれども、未だ曾て僱主の結合に就て聞きたることなしと云ふものあり。若し眞に僱主等は團結することな

しと想像するものとせば、其愚や及ぶべからざるなり。僱主等は喧騒せざれども、常に到る處に於て、労働賃銀を其賃價以上に昂騰せしめざらんが爲に、強固なる團結をなしつゝあり。若し此團結を破るものあらば、彼は其隣人同僚より大なる非難を蒙らざるを得ざるなり。吾人が斯の如き團結の存在に就て聞くこと少きは事實なり。蓋し是れ事物自然の傾向にして、餘りに普通の事實なるが故に、人の視聽に聳ゆることなきなり。彼等は皆に労働賃銀の昂騰を拒がんが爲に團結する而已ならず。其實價以下に低減せしめんが爲に、特種の團結をなすことすら珍らしからず。斯の如き計畫は常に大なる秘密の間に行はれ、計畫全く熟し、遂に實行せられ、労働者等が抵抗するに由なく、泣く／＼涙を飲んで是に服従するに至る迄、更に世間に聞知せらるゝことなきなり。然れども斯の如き計畫は屢労働者の防禦同盟に依りて反抗せらるゝことを免かれず。彼等は斯の如き挑戦に對して應戰するのみならず、時としては自ら進んで、其勞銀を昂騰せしめんがために團結することあり。其理由とする所は、時とし

ては生活費の高價なること。又た時としては、彼等の労働によりて、僱主等が巨利を博することとなりとす。併し其進撃の場合にせよ、若くは防禦の場合にせよ、彼等の團結は必ず大に世間の視聽を動かすを常とするなり。彼等は一の決議をなさんがためには、常に喧噪を事とし、時としては暴力を揮ふことあり。彼等の境遇は、僱主をして直ちに其要求を容れしむるか、然らざれば座して飢渴を俟つの外なきものなれば、其行爲や失望的にして、且つ思慮分別を缺けり。斯る場合に際しては、僱主側として徒に沈黙を裝ふを得ず、行政官の援助を求め、又僕婢労働者職工等の團結に對して冷酷を極めたる法律の勵行を逼るを常とす。要するに、僱主と労働者の對戦に於ては、労働者等の喧噪と暴力とは、彼等のために何等の好結果をも持ち來さずして、徒らに其主唱者等の責罰と没落に終るに過ぎず。彼等が不成功の原因一は行政官の干渉により、二は僱主側の強固なるにより、三は労働者等の生活情態は、彼等をして持久對戦するに堪へざらしむること是なり。

夫れ然り、僱主と労働者の對戦に於ては、僱主は常に優勝の地位に立つと雖も、或一定の程度以下に長く勞銀を引下ぐることは到底爲し得べきにあらず。最下級労働者の賃銀と雖も決して此例に洩るゝことなきなり。

労働者は其労働に依りて生活するものなり、されば其勞銀は少くとも其生活を維持するに充分ならざるべからず。否、只だ其生活を維持するのみならず、多少の餘裕なかるべからず。然らざれば、彼等は其子女を養育すること能はずして、労働者の階級は其後繼者を失ふに至るべきなり。カントロン氏は最下級の労働者と雖も、其一身を維持するに必要な生活費の二倍を得ざるべからずと思惟するに似たり。其理由は二人の子女を養育することを得しめんがためなり。其妻たるものは子女の養育に従事するものなれば、其労働賃銀は己れの一身を支ふる丈より得る能はざるものと想像し、又た出産したる子女の半数は其成人期に達せざる以前に死亡するものと假定せるなり。されば氏の計算に隨へば、一人の労働者が二人の子女を一人前に養育せんと欲せば、少くと

も四人の子女を支給せざるべからず。而して四人の子女を養育するの費用は大人一人の生活費と略ぼ同じきものと想像せらる。同著者の言に據れば、屈強なる奴隸一人の労働は其一身の生活費の二倍を得るに足り。而して最下級の労働者と雖も、其労働の効程は屈強なる奴隸の夫より少きこと能はざるべし。何れにしても一家族を維持養育せんには、最下級の労働者と雖も、其夫妻の得る所を合せて、彼等自身の生活を維持するに必要なる額よりも、幾分か多からざるべからざるの一事丈は否むべからざるの眞理なりとす。然れども其比例の上段記するが如き割合なるべきや否やに就ては、是處に斷言すること能はず。

然れども時としては労働者をして、人情の忍び得る限りの最低の程度なる、實價的労働よりも遙かに其労働を昂騰せしむる便利なる事情なきにあらず。一國に於て、労働者職工、僕婢其他給料に衣食する者の需要漸へず増加し、毎年其前年度に於て使用したるよりも多くの労働者を要するが如き場合に於て

は、労働者は其給料を値上げせんがために團結するの必要なし、労働者の拂底は備主等の間に競争を起し、彼等は争ふて高價を拂はんことを申出で、斯くて自然に給料を昂騰せしめざらんがために結べる彼等の同盟は破壊さるゝなり。

給料に依て生活するものに對する需要は、給料の支拂に差向けらるべき資金の増加に比例して増加するの外なし。而して此資金は是を二種に區分せざるべからず。第一は生活の必要以上に生せる歳入の剰餘なり。第二は備主等が其業務を營むに必要とする額以上の資本なり。

地主、年金受領者、若くは資本家等が其家族を維持するに必要なりと思考するより以上の歳入を有する場合には、彼等は其剰餘の全部若くは幾部分を以て、婢僕を使役するに至らん。而して其剰餘の増すに隨ひて、婢僕の數も亦た増加すべきなり。

織夫若くは靴製造者の如き、独立的營業者にして、若し其材料を買ひ、且つ其製

品を賣却するに至る迄の間の生計費を除きて尙餘分の資本ある場合には彼等は一層多くの利益を得んがために其剩餘を以て職工を傭ひ入るべし。而して其剩餘の増加するに随ひて其職工の數も亦た増加すべきなり。されば給料に由て生活するもの、需要は一國の歳入及資本の増加に隨て増加すべく。歳入と資本の増加なくして、獨り労働者の需要而已増加せんことは決してあり得べき事にあらず。歳入と資本の増加は即ち國富の増加なり。故に給料に依て生活するもの、需要而已増加せんことはあり得べからざるべし。なりとす。

労働賃銀を昂騰せしむるものは其國富の大なることにあらずして其斷へず増進することなりとす。故に最高の労働賃銀を拂ふ國は最富の國にあらずして最も繁榮にして大なる速力を以て國富を増加しつゝある國なりとす。現今に於て英國が北米の何れよりも富めることは何人も是を疑ふものなからん。然れども労働賃銀は北米合衆國の方英國の何れの部分よりも遙かに高價た

るなり。……

労働者に對する需要と彼等を支給せんがための資本の増加は労働者の増加よりも迅速なりと思はるべし。一國の富如何に大なりとも若し長く停滯不動の情態にあらば其國の労働賃金は決して高價なること能はざるべし。給料支拂のために差向けらるべき資本及び其人民の歳入と資本は如何に豊富なりとも若し數世紀間同一の情態にあるか或は同一に近き情態にあらば年々必要の労働者は容易に供給せらるべく否供給の需要に超過することあるべし。斯る社會に於ては労働者の缺乏を感ずるが如きことあるべき筈なく隨て傭主等が是を得んがために競争するが如きことなきに反して其働口に比して労働者の數多きを以て彼等は是を得んがために互に競争せざるべからざるなり。若し斯る國家社會に於て労働賃金が労働者自身と其家族を支給するに必要なより以上に高價ならんには労働者相互の競争と傭主等の打算とは懸がて忍び得る限りの最低の

額に引下すんば休まざるべし。支那は富國の一にして、其土地は豊穰にして、能く耕耘され、其人民は勤勉にして、其人口は世界に冠たり、然れども其社會の情態は長く停滯不動にして進歩することなし。……多くの旅行家が同國の事情に就て記述する所、他の點に於ては互に衝突する所あるに關らず、勞働賃金の低廉にして、勞働者が家族を維持するの非常の困難なる事に至ては、凡ての旅行家の一致する所なりとす。

然れども支那は停滯不動にして進歩せざるに關らず、敢て退歩するの色なし、其市街の荒敗に歸したるものなく、又た一度開墾せられたる土地の委棄せらるゝことなし。故に年々勞働者に對する需要は増加せざれども、敢て減することなく、又た是を維持せんがための資本も減することなし。故に最下の勞働者と雖も、其生活情態の慘憺たるは云ふ迄もなき事ながら、兎に角其種族を永續することを得るなり。

然れども勞働者を維持せんがための資本が年々減少しつゝある社會に於て

は、婢僕及勞働者の需要亦年々減少しつゝあり。上流社會に教養せられたるものも、相當の職業を見出す能はざるがために、其身を落として下級の職業に従事するに至り、斯くて下級社會のものは其同社會より壓迫さるゝのみならず、全階級より壓迫を蒙るに至り、隨て其競争最も甚だ敷、其勞働賃金は其生命を維持し能ふ限りの最低の額に引下げられざるを得ず。否、斯の如き憐むべき賃金をすら得る能はざるもの多く、飢渴に瀕するか、人の憐憫を請ふか、否らざれば恐るべき大罪を犯すに至らんとす。缺乏と、飢餓と、死滅とは是階級を殘害し、漸く上流の階級に及び、遂に其人口を減じて其國の歳入と資本とに依て容易に是を維持し得るに至り、始めて死は其手を緩めんとするなり。……されば勞働賃金の高きは其國富の増加しつゝある自然の徵證にして、其賃金の低下なるは其經濟情態の靜止的なるを示し、其饑餓に逼まるの情態にあるものは、其國富の減退しつゝあることを示すものなりとす。

英國現在の勞働賃金は、慥かに勞働者が其家族を維持するに必要の限度以上

にあり。是れ頗る明白なる事實にして、吾人は是を證明せんがために、是處に繁
鑽なる計算や統計表を提示するの必要なるべし。吾國の勞働賃金が忍び得
る限りの最低限度に達し居らざるの證據は社會の到る所に於て、容易に是を
發見することを得べきなり。

第一、英國内何れの部分に於ても、最下等の勞働に至る迄、夏期と冬期とによ
りて賃錢に差等あり、夏期の賃錢は冬期に比して高きを常とす。然れども薪炭
等の必要のために、生活費は夏期よりも冬期に於て多くを要する筈なり。生活
費の廉なる時期に賃金高く、生活費の高き時に反て賃錢の廉なるは、是れ英國
の勞働賃金が、生活の必要によりて支配せられずして、其仕事の多寡と、價值と
によりて決定せらるゝの明證なりとす。彼等は夏期の給料の殘餘を貯蓄して、
冬期の不足を補はざるべからず。斯くて一年を平均すれば、彼等の得る所は、要
するに其家族を支持するに足るのみ。然れども奴隸若くは絶對的に他人に依
て生活するものは、斯の如くなる能はず。其日々の生活は日々の必要を充たす

に過ぎざるべきなり。

第二、英國に於ては勞働賃金は食料の代價の高下によりて支配されざるな
り。日用品の物價は年々變動し、又た月々變動する場合も少からず。然れども多
くの場所に於て、勞働賃金は半世紀間更に變動せざることあり。故に若し彼等
にして兎歳に於てすらも、其勞働賃金を以て家族を維持するを得たりとせば、
平年に於ては相當の餘裕あるべく、豐年に於ては其生活は頗る安樂なるべき
筈なり。過去拾年間日用品の代價は頗る騰貴したるに關らず、勞働賃金は著る
しき上進をなさざりき。尤も或地方に於ては大に勞働賃金の騰貴したる所あ
れども、其原因は食料品の高價なるがためにあらずして、勞働者の需要の増加
したるがためなりとす。

第三、食料品の代價は年々勞働賃金よりも大なる變動をなし、勞働賃金は甲
の場所と乙の場所の間に於て食料品の代價よりも多くの差等あるを常とす。
パン及肉類の代價は英國内の大部分に於て略ぼ相同じ、其外小賣店に於て販

賣さるゝ多くの物品労働者は凡ての物品を小賣店に於て購求するを常とするは僻遠の地方に於けるも大都會に於けるも其代價に大差なく時としては大都會の方反て僻地よりも廉價なることあり其理由に至ては後段更に説明する所あるべし然れども大都會及其附近の労働賃金は數哩を隔てたる田舎に比して四分の一乃至五分の一即ち二割乃至三割方高價なること珍らしからず倫敦及其附近に於ては一日拾八片を以て普通労働者の賃金とすれども數哩を隔てたる田舎に於ては拾四片乃至拾五片となりエヂンバラ及び其附近に至れば拾片を以て普通とし夫より數哩の田舎に入り込めば八片に低下するなり是れ蘇格蘭土低地方に於ける普通労働者の賃金なりとす蘇國に於ては英國の如く地方によりて労働賃金に大なる差等なきなり場所の異なるに随ひて労働賃金に大なる等差あるは労働者は物品の如く爾かく容易に甲地より乙地に移轉せしむる能はざるに依り物品の代價の何れに於ても大差なきは如何なる巨大の物品にても容易に運搬さるゝが故に忽ちにして其代價

を平均するに是れ依るなり由來人性の輕浮にして動き易きことは常に人々の口にする所なれども經驗の示す所に據れば人類は最も移動し難き貨物たるなり何れにしても若し労働者が其賃金の最も低廉なる地方に於て其生活を持續することを得ば最も高き地方に於ける労働者は充分の餘裕を有すべき筈なり

第四、労働賃金は時と場所とに於ける食料品代價の變動に伴はざるのみならず往々にして反對の方向に進むことあり……

蘇國人の食物は英國人の夫に比して頗る劣等にして普通の社會に於ては其食物の大部分を占むるものは「オートミール」にして彼等の食物中の最良の部分なりと思惟せらる人或は此生活上の相違を以て英蘇兩國労働賃金に大差ある原因となすものありと雖も是れ大なる誤解にして斯の如き生活上の相違は労働賃金の相違より生ずる結果たるに過ぎざるなり或人は馬車に乗り其隣人は徒歩す其馬車に乗るは富めるが故にして馬車に乗るが故に富める

にあらず其隣人の徒歩するは貧しきが故にして徒歩するが故に貧しきにあらざるなり

い、英蘇兩國の穀價は前世紀の方現世紀に比して多少高直なりしことは明瞭の事實なるが労働賃金は却て低廉なりしなり故に前世紀の労働者が能く其家族を維持し得たりとせば現世紀の労働者たるものは頗る安樂の境遇にあるものなりと云はざるべからず……

農業、製造業、商業の改良進歩は蘇國に比し英國の方早くより行はれたれば労働の需要隨て其賃金も増加すべき筈にて前世紀に於ても現世紀に於ても英國の労働賃金は蘇國に比して遙かに上位にありしなり……

何~~ん~~にても労働賃金を正確に計算せんことは頗る難事に屬す何となれば同一地方に於ける同種類の労働にても其賃金は必ずしも同様ならず労働者の伎倆に而已由らず僱主の寛大なると冷酷なるによりて其賃金に大なる相違を來すことあればなり法律に依りて労働賃金を規定せざる場合に於て是

を決定する事情は極めて常識的のものなりとす法律を以て労働賃金を規定せんことは屢企でられたれども經驗上全く不可能のことなるを發見するに至れり

労働に對する實際の報酬即ち労働者が得能ふ生活上の必需品と便利品の分量は現世紀に至りて貨幣に依りて示されたる労働賃金の増加の割合に勝りて増加せり管だに穀物の代價が下落せるのみならず労働者の生活に必要な食料品の多くは下落の傾向を有せり例へば馬鈴薯の代價は國中の大部分に於て是を三、四十年前に比すれば半價以下に低落せり蕪、胡蘿蔔、玉菜等亦然り以前は鐵を以てするの外栽培せられざりし農作物の多くは今は普通に鋤によりて耕耘さることゝなれり穀物野菜のみならず菓物の如きも亦た等しく下落せり前世紀に於ては英國に於て費消さるゝ林檎の大部分はフランスより輸入されたり否葱すらも然りき麻布、毛布等の製造業の發達も亦目を驚かすに足るものありために労働者は廉價を以て其衣類を購求する

ことを得るなり。又た金屬製造業の進歩により、廉價を以て其職業に要する便利の器具を求むることを得、又た家庭に必要な什器を備ふることを得るなり。石鹼、鹽、蠟、燭、皮革、酒類等は課税の結果として頗る騰貴したれども、勞働者階級が是等の物品を要することは比較的多からず。是れがために勞働者が苦痛を感ずるの度は他の多くの必要品の下落によりて得る幸福の大なるに比較すべくもあらざるなり。奢侈の風潮が漸く下級社會に迄及び、勞働者が以前の衣食住を以て満足せざるに至れりとは、屢々聞く所の非難なるが、是れ儘かに貨幣上の賃金の増加したるのみに止まらず、實際所得の増加したることを證明するものなりとす。

斯の如く勞働者階級の生活情態の改善せることは、社會全體に取りて利益なるべきや否や。是れ多言を要せずして明なる問題なり。何れの國に於ても社會を構成する大多數の人民は、婢僕、勞働者、職工等の階級に屬するものなるが故に、其大多數者の便利幸福は即ち其社會の便利幸福なりと云はざるべからず。

何れの社會にても、其大多數が貧窮の境遇にあらば、決して其全體の繁榮幸福なるべき理由あるべからざるなり。加之、社會の全體に衣食住を供給する勞働者自身が、相當の衣食住を得んことは、是れ最も公平のことにして、當さに然らざるべからざることなりとす。

貧困は結婚を妨害すること勿論なれども、決して是を禁絶するものにあらず。是は勿論時としては子孫の繁殖に便利なる事情あるが如く見ゆることなきにあらず。綺羅錦繡に纏はれたる貴婦人等に子なきもの多く、是ありとするも、概して二三人を限度とするに關らず、飢餓に瀕せるが如き蘇國高原の婦人が廿人以上の子女を出産すること稀有の例にあらず。石婦は多く交際社會の婦人中にあり、下等社會には極めて稀なり……

夫れ然り、貧困は其子孫の出生を禁絶せざれども、其子女を養育するに極めて不便の境遇なりとす。嫩芽は萌へ出づるも、氣候の嚴烈にして、土地の荒确なるがため、忽ち枯死せざるを得ず。蘇國高原に於て二十人の子女を出産する婦人

あれども、其中満足に成長せるものは只だ一人に過ぎずと云ふが如きことは吾人の履耳にする所なりとす。……斯の如く貧窮の階級に於ては出産數頗る多けれども、其死亡率極めて高く、其子孫の満足に成長するもの、數は、一小部分に過ぎざるなり。……

凡ての動物は其生活の便宜に比例して増殖す、決して夫以上に増加することなきなり。然れども文明の社會に於ては、食物の缺乏のために人口の増殖を制限し得るは、全く最下等社會に於て而已。而して是は結婚の結果として生産したる子女の大多數を亡滅せしむるとに依りて而か爲し能ふことなりとす。勞働賃金の高價なることは、彼等をして其子女に對する手當を厚からしめ、隨て多數の子女を養育するに依り、以上の制限を擴張するの傾向あり。更に又た注意すべきことは、此制限の擴張が勞働者に對する需要の比例に應じて爲さるゝことなりとす。若し勞働者の需要が引續き増加する場合には、勞働賃金は必然の結果として昂騰すべく、勞働賃金騰貴の結果は勞働者の結婚を促進し

て人口を増殖し、以て増加せる需要に應ずるに至て止むなり。若し是に反して、勞働者の得る所の報酬が右の目的を達するに不足なる場合には、自然に勞働者の數を減少し、依て以て其賃金を騰貴せしむべく、斯くて再び餘裕を生ずるに至らば、應がて又た人口の増殖を促し、以て其賃金を必要の程度迄下落せしむることゝなるなり。一の場合に於ては市場に勞働者の不足を告げ、他の場合に於ては過剩あり、不足あれば賃金は騰貴し、過剩あれば下落し、以て社會が要求する必要の程度に復歸せしむるなり。人間に對する需要が其生産を支配するの事情は、斯くて他の物貨に於けると更に異なることなし。其進行の緩漫に過ぐる場合には、是を促進し、餘り急激に進行する場合には、是を停止するなり。北米に於ても、歐羅巴に於ても、支那に於ても、其他世界の各國到る所に於て、人口繁殖の程度を左右し、決定する所の唯一の事情は、此需要の情態なりとす。是に依りて米國に於ては急激の増加をなし、歐羅巴に於ては徐々として進歩し、支那にありては、靜止的情態を現出しつゝあるなり。

奴隸の「使ひ耗り」(Wear and tear)は其主人の損失に歸し、自由労働者の「使ひ耗り」は彼自らの損失に歸すとは、普通世間に唱ふる所なるが、其實自由労働者の「使ひ耗り」も奴隸の夫と同じく傭主の損失に歸すべきものなりとす。諸般の職工及婢僕に拂はるゝ給料は其社會の是等に對する需要の増進的なるか、減退的なるか、停止的なるかに隨て、其種族を永續するに足るものならざるべからず。尤も自由労働者の「使ひ耗り」も奴隸の夫と同じく主人の負擔に歸すとは雖も、奴隸の場合に比すれば固より少額なりとす。奴隸の「使ひ耗り」の場合に是を入換へ、若くば修覆若し斯の如き言語を用ゆることを得ば、せんがために定まれる資本は普通怠慢なる主人若くば不注意なる監督者によりて處理さるゝを常とすれども、自由労働者の場合に於ては彼れ自身に依りて處理さるゝなり。されば前者の場合に於ては富者の經濟に於て往々免かれざる浪費あるべく、後者の場合に於ては概して細心注意して亂費を避くるに勉むべきなり。斯の如く取扱上に関する手心の相違は、其實際の經費の上に大なる相違を現はさ

ずんばあらず是故に各時代各國民の經驗に徴すれば、自由労働者の労働は、結局奴隸の労働に比して廉價たるなり。ポストン、紐育費府の如き普通労働者の給料の極めて高價なる所に於てすらも亦た然りとす。

されば労働賃金の高價なることは其富の増殖する結果なると同時に、又た人口繁殖の原因なりとす。是に對して不平を唱ふるは、即ち社會繁榮の原因と結果とを非難するに異ならざるなり。

茲に一の注意すべきことは、既に其富の充實せる國に於けるよりも、駭々として進歩しつゝある國に於ける方、労働者及び大多數の國民は一層幸福の情態にあること是なり。云ふ迄もなく、靜止的の社會に於ける労働者の生活は頗る困難にして、退歩的の社會に於ける彼等の境涯は頗る慘憺たるものなりとす。進歩的の社會に於ては、各階級を通じて、活氣精神滿ち、人々皆な怡々として生活を樂むの色あり、靜止的の社會に於ては凡ての調子極めて緩漫遲鈍にして、退歩的の社會に於ては萬事憂鬱陰森を極むるなり。

勞働賃金の高價なることは、人口の繁殖を促進すると同時に、一般社會の産業を増進するなり。産業も亦た人間社會の他の事物と同様に、其受くる獎勵に比例して進歩發達するものにして、勞銀の高價なることは、即ち産業に對する獎勵たるなり。生活の豊なることは、勞働者の身體を健全にし、其生活情態を改善するの愉快なる希望と、安樂に其生を終らんとするの安心とは、彼を鼓舞して其全力を効さしむるなり。是故に給料の高き國に於ける勞働者は、其低き國に於ける者に比して、快活勤勉にして且つ迅速たるなり。例へば蘇國に於けるよりも、英國に於て、僻遠の田舎に於けるよりも、大都會の附近に於て、多く是等の資質を發見するなり。……

勞働賃金の騰貴は、云ふ迄もなく、物品製造の費用を増加するが故に、必然の結果として、物品の代價は騰貴せざるを得ず。隨て國の内外に於て、其物品の消費を減するの傾向を有す。然れども是と同時に、勞働賃金を増加する原因なる資本の増加は、其生産力を増加するの傾向を有し、少量の勞働を以て、多額の生産

を得せしむるなり。又た多數の勞働者を使用する資本家たるものは、出來得る限り多額の生産を得んがために、必ず其勞働者をして適當の分業をなさしむべし。同一の理由によりて、彼は又た得能ふ限り上等の器械を其勞働者に供給せんことを勉むるならん。一製造所の勞働者間に起り得べきことは、同一の理由に依りて、一社會の勞働者間にも起り得べし。其數の大なれば大なる程、種々の階級に別れ、又た小區分に別たるべきなり。而して以前よりも多くの人々、新器械の發明に潜心するが故に、隨て多くの適當なる器械を發明すべき筈なり。斯の如く諸方面の改良進歩により、多くの物品は以前よりも少量の勞働によりて生産さるゝが故に、自然に其物品の代價を引下ぐべく、勞働賃金の高價なると相殺して尙餘りあるべきなり。

第九章 資本より生ずる利益

資本に對する利益の高下も、勞働賃金の高下と同じく、其國富の増進的なるか、

退滅的なるかの事情に由りて定まるものなれども、是等の原因が兩者に及ぼす影響に至りては、大に趣を異にするものあり。

資本の増加は、労働賃金を増加すれども、資本に對する利益は反て是がために減少するなり、多くの商人が同一の商業に資本を卸せば、自然に彼等の間に競争を生じ、其利益を減少するは勿論、一國一社會に行はるゝ、凡ての商業が潤澤の資本を得れば、亦た同様の競争に由りて、凡ての商業に對する利益を減殺することゝなるなり。

労働賃金の平均額を確知せんことは、一定の時所に於てすらも、頗る困難のことにして、只だ最も普通の給料の何程なるかを確かむるより外なきことは、既に記述せる所なるが、資本に對する利益の場合に於ては、是すらも殆んど是を確認するに由なきなり。利潤なるものは、頗る變動常なきものにして、商人自身すらも年々得る所の利益の平均額が何程なるかを知る能はざるなり。利潤は商品の價格の變動によりて影響を受くるは、勿論、其競争者及得意の榮枯盛

衰に依て影響を受くべく、又た商品の運送中若くは倉庫にある間の出來事などに依りて大なる影響を受くべきなり。故に其變動は年々測るべからざるは、勿論日々刻々變化極りなきなり、而して一大國に行はるゝ各商業の平均利潤を確認せんことは更に困難にして、若夫れ、遠き過去に溯りて、其利潤の何程なりしかを確認するが如きは、全く不可能なりと云はざるべからず。

夫れ然り、現在に於ても、過去に於ても、資本に對する平均利益が何程なりやを明確に計算することは不可能なりと雖も、而かも金利の高低によりて、多少の概念を得能はざるにあらず。何處にても金銭の使用によりて多くの利潤を得能ふ所に於ては、多くの使用料を拂はるべく、僅少の利潤より得能はざる所に於ては、少額の使用料を拂はるべきことは、一箇の原則と見做して、差支なし。されば利潤は利息の變動に隨て變動すべく、利息の下落する場合には、利潤も低下し、其騰貴する場合には、利潤も亦騰貴すべし、故に金利の變遷の跡を察すれば、以て利潤の變遷に關する概念を形造ることを得べきなり。

ヘンリー八世の法律第三十七號により、一割以上の利子を徴することを禁せられたり、其以前には時としては一割以上を徴することありしと思はる。エドワード第六世の治世に於ては宗教上の熱心のために、一切利子を徴することを禁せられたりしが、他の同種類の禁令と等しく、何等の効果をも現はさざりしのみならず、實際に於ては寧ろ高利の弊害を助長したりと稱せらる。ヘンリー第八世の利息制限法は其後エリザベース女王の法律第十三號第八條によりて復活せしめられ、一割を以て法定の利息とせしが、ジェームズ第一世の時に至り、法律第二十一號を以て八分に低減せり、王政復古の後間もなく六分に低減せしが、アンネ女王の治世に至り、法律第十二號を以て五分と規定せられたり。以上の制限法は何れも慎重の考察を経たるものと思惟せらるれども、常に市場に於ける金利の趨勢、即ち信用ある人々の借り得る金利の跡を逐ふのみにて、曾て是が先驅となりて、當時の金利を低減せしめたるの例なきなり。而してアンネ女王の治世以降五分の利子は寧ろ市場の金利よりも高きものとなれるに似たり……

ヘンリー第八世の時以來英國の富と歳入とは斷へず進歩しつゝあり、而して其速度は歲月の進むに隨ひて愈急激に赴くに似たり。勞働賃金は同期間引續きて上進し來りけるが、商工業の大部分は其資本に對する利益を減少せられたり。

何の商業に關らず、村落に於てするよりも、都會に於て營業する場合に於て多くの資本を要す。而して其凡ての商業に卸されたる大なる資本と、富有なる競争者の多きこととは、都會に於ける商業の利益をして、田舎の夫よりも低下ならしむるを常とす。然れども勞働賃金は田舎よりも都會の方高價なることは前既に説けるが如し、繁華の都會に於ては大資本を擁する人々の往々にして充分の勞働者を得ざることあり。是に於てか資本家の間に競争を生じ、勞働賃金を騰貴せしめ、斯くて資本に對する利益を低減するに至るなり。是に反して僻陬の地に於ては、資本の缺乏せるがために多くの勞働者を雇傭する能はず。

隨て労働者の間に競争を生じ、労働賃金を低減し、以て資本に對する利益を多からしむるなり。

法定の利子は蘇格蘭に於ても英國と同一なれども、市場の金利は蘇國の方英國よりも高し。……多くの商業は蘇國に於ては英國よりも少き資本を以て營業することを得るが故に、普通利益の割合は蘇國に於て英國よりも大なる筈なり。労働賃金の蘇國に於て英國よりも低廉なることは前既に是を説けり。蘇國は富の程度に於て英國に劣るのみならず、其進歩の速度も亦た英國に比すれば頗る遅々たり、但だ其進歩しつゝあるの一事に至りては固より疑ふべきにあらず。……佛蘭西は現今に於ては英國程富裕ならず、而して法定利子は佛蘭西の方英國に比して低下なれども、市場に於ける金利は概して英國より高し。是れ佛蘭西に於ては他の諸國に於けると等しく、安全に且つ容易に其法律を無視する種々の方法あればなり。余が英佛兩國に於て商業に従事せる經驗ある一商人より聞く所に據れば、佛蘭西の方英國よりも商業上の利益多

しと云へり。多くの英國資本家が商業の大に尊敬さるゝ國よりも、寧ろ其輕蔑さるゝ國に資本を卸さんことを希望するは全く此理由に依るものなりとす。労働賃金の佛蘭西に於て英國より低廉なることは云ふ迄もなし。蘇國より英國に來るものは其普通人民の容貌服裝の大に異なるものあるを發見すべし。是れ懸がて彼等の生活情態の異なることを表示するものなるが、佛蘭西と英國の間には更に大なる相異あり。佛蘭西は云ふ迄もなく、蘇國より富裕なれども、而かも其進歩の速度は頗る遅緩なるに似たり。……

和蘭陀は其土地の廣袤と人口に比例すれば英國よりも富めりと云はざるべからず。和蘭陀にては政府の公債は二分にして、信用ある私人は三分にて金を借ることを得べし。労働賃金は和蘭陀の方英國より高く、和蘭陀の商人が歐洲中の何れの國人よりも、薄利に満足することは普く世間に知られたる事實なり。和蘭陀の商業は衰退しつゝありと稱するものあり、勿論或種の商業は衰退しつゝあるならんと雖も、叙上の微證に據れば決して其大體に於て衰頽せざ

ること明なりとす。商業上の利益の漸次減退するを見て、商人が是を衰微の證據なりとするは、寧ろ當然のことなれども、其實利益の減少するは、社會の繁榮にして、巨額の資本の商業に投下されたる結果なりとす。嘗て戦争當時に於て佛蘭西の運輸業は擧げて和蘭陀人の手に歸せしが、今も尙其幾分は彼等の手中に残存しつゝあり……

吾が北米及び西印度の植民地に於ては、嘗に勞働賃金のみならず、金利も隨て資本に對する利益も英國に於けるよりも高し……勞働賃金と資本の利益と共に高率ならんことは、新植民地の特別の事情の下に於けるの外あるべからざる事例なりとす。植民地に於ては、最初暫らくの間は、其土地の廣さに比して資本少かるべく、又た資本に比して、勞働者の數は一層少かるべし。彼等は多くの土地を有すれども、是を開墾するに要する資本を有せず、故に其有する所の資本は只だ最も豊饒なる土地及河畔海岸等運輸の便ある地方に而已使用せらるゝを常とす。而して是等の土地は時としては、其れに生ずる天産物の價

格より低き代價を以て購買さるゝことあり。斯の如き土地の買収と改良とに投下されたる資本は固より莫大の利益を生ずべく、隨て高歩の利息を拂ふことを躊躇せざるなり。斯くて彼等は巨利を博するにより、更に新農場の開墾に従事するに至り、多くの勞働者を要するにより、自然に勞働者の缺乏を來し、其賃金は愈々高騰して止まる所を知らざるなり。然れども植民地の漸く占領し盡さるゝに隨ひて、資本の利益は減少せざるを得ず、最も豊饒にして、好地位を占めたる土地の漸く占領し盡さるゝや、資本は徐々に劣等の土地に向けられ、斯くて其利益は減少し、隨て其金利も亦低減せざるを得ず。是故に吾植民地の大部分に於て、現世紀中、法定利子も、市場の金利も漸く低減しつゝあり。富と、諸般の設備と、人口と共に増加せしが故に、金利は低落せり。勞働賃金は固より資本の利益と共に低落せず。勞働に對する需要は資本の増加に隨て増加す。其利益の如何に相關せざるなり……

富の迅速に増進しつゝある國に於ても、新領地を加へ、若くは新商業を創開せ

る場合には、時としては資本の利益を増し、隨て金利の昂進することあり。商人の多くは利益の最も大なる特種の商業に従事するが故に、一國の資本は其全産業に供給するに不足を生ずるなり。即ち從來或種類の産業に投下されたる資本は、是より引き上げられ、更に多くの利益を生ずる新産業に差向けらるゝが故に、自然の結果として、舊産業間に於ける競争は以前よりも減少するに至る。而して市場に於ける各種の物品は以前に比して拂底を告ぐるが故に、代價の騰貴を來し、是に従事するものは以前よりも大なる利益を得、隨て高利を拂ふことを意とせざることゝなるなり。以前は四分若くは四分五厘を以て普通の利息となせるに關らず、最近戦争の結了後程なく、倫敦に於ける信用確實なる私人は勿論、有力なる大會社すらも五分を拂ふことを躊躇せざりき。北亞米利加及西印度諸島を加ふることによりて、吾國が大なる領地と新産業を得たる事情は、資本の減少を想像せずとも、能く以上の消息を説明することを得べきなり。……

されども一國社會に於て資本即ち産業維持のために使用さるべき元資の減少する場合には、一方に於て労働賃金を低落せしむると同時に、他方に於ては資本の利益を増進せしめ、隨て金利を昂騰せしむるなり。労働賃金低廉なれば、社會に残存せる資本の所有者は以前よりも廉價に物品を市場に持來すことを得べく、而して市場に物品を持來さんがために使用さるゝ資本以前よりも少額なるが故に、自然に其物品を高價に賣ることを得るなり。其生産費は以前より少くして、其賣價は以前より高し、斯く彼等は一舉にして兩得するが故に、其利益や極めて大なるものあり。ペンガル其他東印度に於ける英國植民地に於ける企業家の忽ちにして、莫大の富を作る所以のものは、是等の衰亡に瀕せる國民間に於ては、労働賃金非常に低廉にして、資本に對する利潤最も高率なるがためなりとす。……

地質氣候並に他國に對する位置等、自然の事情が其國に與へ得る富の最極限に達し、最早此上に進歩の希望なく、さりとて退歩もせざる國に於ては、労働賃

金も資本の利益も共に頗る低廉なりとす。土地の廣袤と資本の額に比して人口の既に充塞せる國に於ては、労働者間の競争頗る激烈にして、幸ふじて労働者の現数を維持し能ふ點に迄、労働賃金を低下せしむば止まず、而して其國の人口は既に充塞しあれば、此上更に増殖することなきなり。其國に現存する凡ての産業に比して、資本の充塞する國に於ては、産業の性質と範圍の許す限り、各産業に對して、多額の資本使用せらるべく、隨て資本主間の競争劇甚にして、普通の利益は最低度に迄減少するなり。

然れども恐らく何れの國家も未だ富の斯の如き程度に達したるものなからん。支那は久しく靜止的の情態にあり、而して既に久しき以前より其法律と社會の組織の下に於て達し能ふ富の最極限に達したるもの、如し、然れども是れ現在の法律と社會組織の下に於ての最極限にして、其法律制度と社會組織の變動したらんには、同じ土地と氣候と國家の位置とを以て、遙かに大なる富の程度に達せんこと明なりとす。……又た富者と大資本家は安全なれども、

貧者と小資本家は常に下級官吏に依りて正義の口實の下に誅求掠奪さるゝが如き國に於ては、其國內に行はるゝ各種の産業に使用さるゝ資本の額は、其産業の性質と分量とが要求する所と同じきこと能はざるなり。何れの商業に於ても、貧者を壓制するの結果は、富者の獨占壟斷を招き、彼等をして法外の利を貪らしむるに終るなり。支那に於ける金利は、一割二分を普通とすと云へり、其商業上の利益は、慥かに此格外の高利を拂ふて、優に餘裕なかるべからざるなり。

法律の不備のために、貧富の關係以外に、一國の金利をして高騰せしむることあり。法律の權威を以て契約を施行せしめざる國に於ては、凡て金を借らんとする者は、法律の完備せる國に於ける、破産者若くは信用缺乏の人間と同様の地位に立たざるべからず。斯る國に於ては、元資の回收確實ならざるが故に、債主は勢ひ高利を徴せざるを得ず。曾て羅馬帝國の西部地方を蹂躪したる蠻人の間に於ては、契約の履行は全く當時者間の自由に放任せられ、政府や法律

は一切是に干渉することなかりき。凡て古代の國民間に於て金利の非常に高かりし理由の一は是に起因するなり。

政府が法律を以て利息の徴收を禁ずることありと雖も斯の如きことは實際に行はれざるのみならず、百害あつて一利なし。餘儀なき事情に逼られて、他より金を借りざるべからざる人多し。然れども何人も自ら其金錢を使用するに依りて快樂を得べきこと、利益を得べきことを知るが故に、無利息を以て人に金錢を貸與するものなかるべく、陰かに利子を徴收する場合には法律を潜ぐるの困難と危険を知るが故に、非常の高利を徴せざるべからざるなり。普通利益の最低限は、資本の使用によりて時々蒙むるべき損失を償ふて尙多少の餘裕あるを程度とす。純利とは即ち此餘利のことなり。彼の總利益と稱する者の中には此餘利の外に、臨時の損失を償はんがために積立てらるべき金額をも含有す。而して金利は此純利の多少に由て支配さるべきものにして、總利益に關係せず。

是と同様に金利の最低限度は、貸附のため時々蒙むることあるべき損失を償ふて尙多少の餘剰なかるべからず。若し然らずとすれば、其動機は全く慈善若くば友誼にありて、利息を目的とするものにあらず。既に其國の達すべき富の極度に達し、凡ての産業に用ゐ得る限りの最多額の資本の使用せらるゝ國に於ては、其純利甚だ薄く、隨て其中より支拂はるべき金利の率極めて低く、大富豪にあらざるよりは、利子に依りて生活すること極めて困難なりとす。故に小資本家若くは中等階級の人々は、凡て自ら自己の資本を利用するの策を講せざるべからず。斯くて社會のあらゆる人物は、商業若くは何等かの業務に従事することゝなるなり。和蘭陀は今や既に此程度に達したるものと覺しく、社會の如何なる階級の人々も商業に従事することを敢て意とせざるなり。……

多くの物品に就て最大の利益なるものは如何なるものなりやと云ふに、地代として拂はるべき全部を其収益に加へ、只だ最低の労働賃金、即ち労働者が其

生命を持続するに足る丈の給料を支拂へば足れる場合の如き是なり。労働者は労働に従事する限り、必ず是を扶助するを要すれども、地主の收得すべき地代なるものは常に必ず拂はるべきものなりと云ふことを得ず。東印度商會の従業者がペンガルに於てなせる商業の利益は蓋し是に相似たるものなりとす。

市場に於ける普通の金利は普通の純利に比例すべき筈にして、純利多ければ利息高く、純利薄ければ利息安からざるを得ず。英國に於ては利子の二倍の利益を得るを以て商人等は頗る豊富なる利益と見做すに似たれども、余の見る所を以てすれば、是れ全く普通の利益に過ぎざるなり。普通の純利が八分乃至一割なる國に於て、借金に依りて商業を営むとせば、其半額を利子として支拂ふは寧ろ當然のことなりと云はざるべからず。借りたる資金に關する凡ての危険は負債者に於て引受けざるべからず。是點に於て負債者は債主に對して其資金を保險するものなりと云ふことを得べし。而して多くの商業に於ては

此保険料と其資金を運用する手数料として、四分乃至五分の利益を收得するを以て至當なりと思惟せらる。然れども金利と純利との比例は商業上の利益の大小によりて必ずしも其率を一にせず。若し其利益にして頗る少額ならんには、其半額を利子に拂はんことは恐らくなかるべく、若し其利益の頗る多額なるに於ては、半額以上を利子に拂ふことあるべし。

富の迅速に増進しつゝある國に於ては利益の比率低きが故に、其労働賃金の高價なると相殺し、以て餘り繁榮ならず。隨て労働賃金の低廉なる諸國と同様の代價にて物品を賣却することを得るなり。

實際に於ては労働賃金の高きことよりも利益の大なる方多く物價をして騰貴せしむるものとす。例へば麻布の製織に於て麻の精製者、紡績者、織夫等凡ての職工が一日二片宛増給せられたりと假定せよ。麻布の代價を騰貴せしむるに相違なしと雖も職工の數に二片を乗じ、夫に又た其使用せられたる日數を乗じたる額だけを騰貴するに過ぎず。即ち物品の騰貴は労働賃金の騰貴に對

し算術的比例に於て増加するに過ぎず。是に反して、是等の職工の傭主等が
几て五分宛以前よりも多くの利益を得ると假定せよ。利益に還元せらるべき
物價の部分は製造の諸階段を通じて、利益の増加に對し、幾何學的の比例を以
て騰貴するなり。製麻者の傭主は其麻を賣却するに當り、曾て自ら投資せる元
料の代價と、労働者に支拂へる給料との兩者に對して五分の増率を求むべく。
紡績者も亦た其麻を得んがために投せる資金と、紡績者に支拂へる給料との
兩者に對して五分の増率を求め、織夫の傭主も亦た麻糸を購はんがために投
せる資金と、織夫に支拂へる給料との兩者に對して五分の増率を求むること
となるなり。労働賃金が物價を騰貴せしむるは、單利の負債を増加する場合と
同じく、利益の増加は重利法的に働くなり。吾人は商人若くは製造家等が労働
賃金昂騰せるがために、物價を騰貴せしめ、其内外に於ける販路を縮小するの
傾向あるを嘆ずるを聞く。而かも未だ曾て彼等の高率の利益を得ることが、如
何に大に物價に影響を與ふるかを聞くことあらず。彼等は他人の利益に向て

不平を訴ふることを知れども、自己に關しては何事をも知らざるに似たり。

第十章 異なる産業間に於ける給料と利益

異種の産業間に於ける、労働及資本に對する、利と不利とは、同一地方に於ては、
全く同一なるべく、然らざれば常に同一の傾向に進みつゝあり。若し同一地方
に於て、他の産業に比して特に有利なる産業ありとせんか、何人も利益少き己
が職業を棄て、利益多き産業に就くべく、斯くて其特種の利益は減じて、他の
産業と同一の程度に平均せらるゝなり。固より此作用の充分に行はれんには、
其社會が全き自由の行はるゝ社會にして、何人も自由に其職業を撰擇し、又た
何時にても自己の職業を變更し得る所ならざるべからず。斯の如き社會に於
ては各人の有する自利心は彼等を騙りて速かに不利の地を去りて有利の地
に就かしむること、最も自然のことなりとす。

労働及資本の使用さるゝ方面の異なるに隨ひて、金錢上の給料と利益とは、歐

洲到る所に於て非常の相違あり而かも此相違は一は各産業特有の事情に原因するものにして實際上に於て或は想像上に於て金銭上の收得の不足を補ひ或は是を減殺するに因るものなりとす而して今一つの原因は歐洲各國の政策にあり歐洲各國中一として此點に關し絶對的自由を與ふるものなきなり。

第一 産業自身の性質より起る相違。

余の觀察する所に據れば或種の職業に於ては其従業者をして少額の給料に満足せしめ他の職業に於ては比較的多額の給料を拂はざるべからざる重要な事情は是を左の五項に概括することを得べし。(一)其職業の愉快なりや不愉快なりやの別。(二)其職業を修行するの難易及費用の多寡。(三)其職業の継続的なりや斷続的なりやの別。(四)其従事者に對して多くの信用を要するや否やの別。(五)其業務の成功の確實なると不確實なると等はなり。

(一) 労働賃金は其従事する職業の難易清潔なりや不清潔なりや名譽的のもの

のなりや不名譽なるものなりや等に隨て各相違ありされば大抵の所にては、一年を平均すれば裁縫職人は織夫よりも其得る所少し是れ其業務の織夫に比して容易なればなり。織夫の得る所は是を鍛工に比すれば少し是れ織夫の業務は鍛工に比して必ずしも容易ならずと雖も比較的清潔なるが故なりとす。鍛冶は一種の技術にして鑄夫は單純の労働者に過ぎざれども鍛工が十二時間の作業に依りて得る所は鑄夫が八時間の労働に依りて得る所よりも少し是れ鍛工の業務は是を鑄夫に比すれば不潔の度少く危険の度も少く且つ地上白日青天の下に従事することを得るがためなりとす。名譽は凡ての業務に於て其報酬の一部を形成し不名譽は反對の結果を表はすものとす。屠者の業務は大抵の場所に於て他の普通の業務よりも多くの収入あり是れ其業務の殘酷にして嫌忌すべき性質を有するに依るなり………

不愉快なること、不名譽とが資本の利益に與ふる影響は労働賃金に於けると異なることなし。旅宿若くは酒樓の主人の如き自己の家屋にして自ら是を

自由にする能はず、時としては酔漢のために亂暴さるゝことあり、決して愉快にして名譽ある業務と云ふことを得ず。然れども其收益に至ては、小資本を以て斯の如く多くの利益を得るもの殆んど稀なり。

(二) 労働賃金は其職業を修得するの難易及是に要する費用の多少によりて相違あり。

一箇の高價なる器械の据え附けられたる場合には、其磨損せざる中に充分に是を使用して、少くとも通常の利益を以て其資本を回収せざるべからず。多くの苦心と歳月とを費やして、熟練と技巧を要する職業を修得したる人間は、斯の如き高價の器械に比することを得べし。彼は其習得したる業務に依りて、少くとも其費やしたる資本をば通常の利益を以て回収することを勉めざるべからず。而して人間の働き得る期間は僅かにして、時々夭折することあれば、回収の業は相當の期間に於てせられざるべからざるなり。

熟練労働者の給料と、普通労働者の夫れとの相違は此原理に由るなり……

技藝家及學術的職業に従事するもの、受くべき教育は、一層困難にして多くの費用を要するが故に、畫家、彫刻家、法律家、醫師等の受くる報酬は隨て一層大ならざるを得ざるなり。

資本に對する利益に至ては、其資本の使用せらるゝ業務の習得し易きか否らざるかに依りて、影響を受くること極めて少し。大都會に於ては資本は種々の異なる方面に使用せらるれども、其各種の異なる業務は是を習得するに難易の差甚しからざるに似たり。内國の商業と、外國の貿易とを比較するも、兩者の中何れがより複雑にして且つ困難なりと云ふの差別甚しからざるなり。

(三) 労働賃金は其職業の繼續的なるが、若くは斷續的なるかに隨て高下の差あり。

或種の職業は繼續的なれども、或職業は斷續的なり。製造業の多くは若し其職工にして働かんと欲せば、年中間斷なく其職に従事することを得べし。是に反して左官若くは煉瓦積の如きは、甚しく霜の降る日、或は雨雪の日には其職に

従事すること能はざる而已ならず、平時に於ても、只だ僱主の來り雇ふを俟たざるべからざるが故に、徒手遊食せざるべからざること屢、是れあり。されば其職業を得る曉には、其徒食中の費用を取り返さざるべからざるのみならず、其生活の不定なるより起る精神上の不安に對しても、辨償する所なかるべからざるなり。

業務の繼續的なると斷續的なるとは資本の利益に對しては影響する所なし。其資本の間斷なく使用せらるゝと否やとは業務に關係せず、是を使用する人に由りて決するなり。

(四) 勞働賃金は其職業に要する信用の大小に由りて相違あり。

金銀細工及寶石師等の給料は、何處にても、他の普通の勞働者に比すれば頗る高し。是れ其金銀寶石を依託するものなるを以て、其伎倆の上に於ても、道德の上に於ても、信用するに足るものならざるべからざるが故なりとす。

吾人は吾人の身體を醫師に依託し、吾人の財産、名譽、時としては其生命をも辯

護士に依託せざるべからざることあり。斯る信認は決して卑賤なる普通勞働者に與ふべきにあらず。されば是れに對する報酬は彼等をして大なる信認を負ふて世に立たしむるに足るものならざるべからず。況んや其準備教育のため、に長き歳月と多額の費用を要するに於ては、彼等の報酬の高貴なる固より其所なりと云はざるべからず。

其業務に従事する者に對して、多くの信用を置くの必要あると否とは、資本の利益に對して影響を與ふることなし。

(五) 勞働賃金は其職業に對する成功の確實なると、不確實なるとによりて高下の差を生ず。

茲に一人あり、將來某の業務に従事せんと目的を以て修養準備するとせんに、其人が是に適するや否や、成功し得るや否やの度は、其職業の性質によりて大に異ならざるべからず。器械的の職業ならんには、其成功は殆ど疑を容るるの要なけれども、學術的の職業ならんには、成功するや否やは頗る不確實なり。

と云はざるべからず……

公平なる富籤に於ては、當籤者は他の落籤者が損失すべき全額を得るを以て法とするが如く、廿人の失敗者に對して僅かに一人の成功者を得るが如き、高等職業に於ては、其一人は他の廿人が若し成功したらんには得べき筈なる全額を得ざるべからず、辯護士の如き齡四十歳に近くして漸く其職業より多少の収入を得能ふが如き職業に於ては、自ら其準備教育のために費やしたる所を回收せざるべからざるのみならず、他の廿人が是れがために費やしたる所をも回收せざるべからざる筈なり。故に辯護士の報酬の如き表面頗る高額なるが如くに見ゆれども、實際に於ては當然回收せざるべからざる金額に達せざるものとす。……されば此場合に於ては充分に公平なる富籤なりと云ふことを得ず、管に辯護士のみならず、他の多くの名譽的高等職業に於ても、其金錢上の収入は決して充分なる報酬と云ふこと能はざるなり。資本に對する利益の比率は、其収益の確實なる否とによりて多少の影響あり

るを免かれず。内地向の商業は概して外國貿易に比すれば安全確實にして、外國貿易中に於ても比較的的安全なるものと然らざるものとあり。北米との貿易は是をジャマイカの夫れに比すれば頗る安全確實なるものあり、普通の利益の比率は其商業に伴ふ危険の有無に由りて、或程度迄左右せらるれども、而かも其危険の度に正確に比例するにあらず、又た其危険より起る損害を辨償する程の程度にはあらず、不安固なる商業に於て破産を來すことあるは珍らしからざる事實なり。……

されば以上に列舉せる労働賃金を左右する五箇の事情中、同時に資本に對する利益の上に影響を及ぼすものは、其業務の愉快なると不愉快なると、及び安全なりや若くは危険を伴ふことありやの二事情に過ぎず。而して其業務の愉快なるや、不愉快なるやの事情は、労働賃金の上には大なる影響を及ぼせども、資本の利益に對して及ぼす所の影響は極めて少し、又た危険の有無によりては、資本の利益に影響を蒙むれども、是れとて其高下の度は危険の度に比例す

るにあらず。依是觀是同一社會若くは其附近に於ては資本に對する普通の利益は、勞働賃金に比すれば、異種の産業間に於ける高下の差少なく、常により多くの平均を保つものと云はざるべからず。而して事實亦た斯の如し。普通勞働者の所得と卓越せる辯護士若くは醫師の所得との相違は、異種の産業間に於ける普通利益の相違に比して遙かに大なるものあるなり。而して偶、異種の産業間に於ける利益に大差あるが如く見ゆるものなきにあらずと雖も、其多くは給料と利益との相違を充分明確に爲し能はざるより生ずる妄想に過ぎざるなり。

藥劑師の利益とは、法外の利益を言表はす諺になり居れども、其實此法外の利益なるものは、當然なる勞働賃金に過ぎざるもの多し……
右の五箇の事情は、勞働賃金及利益の上に頗る大なる影響を及ぼすものなりと雖も、實際に於ても亦た想像上に於ても、異なる業務の間に存する全利害に影響するものにあらず。是等の事情の性質は、或業務に於ては其金錢上の不足

を補ひ、他の業務に於ては、比較的多額なる金錢上の報酬を減殺するの傾向あるに過ぎざるなり。

されども此平均的作用をして、其利害の全體の上に働かしめんには、完全なる自由の行はるゝ所に於ても、尙左の如き三箇の條件を具備せざるべからず。

(一) 斯の如き平均作用は、其業務の世に熟知せられ、其地方に長く存せるものならざるべからず。

他の事情にして同一ならんには、勞働賃金は概して舊事業よりも新事業に於ける方高價なりとす。茲に一の企業家ありて、新製造業を起すとせんに、彼は先づ他の製造家の提供するよりも高く、又た其業務當然の給料よりも高き給料を提供して、勞働者を誘致せざるべからず。而して彼れが其給料を他の平均相場に引下ぐるを得る迄には、多少の時日を経過せざるべからず。

奢侈的流行的物品の製造業に至ては、世の嗜好の變遷するに隨て變遷し、永年間に涉りて存在するものにあらず。是に反して必要品の製造業に至り

ては變化に逢ふ事少く、同一物品の需要全世紀を通じて變らざるが如き實例
乏しからず。故に労働賃金は後者に於けるよりも前者の場合に於て、より高價
なるを常とす。パーミンガムに於ては主として前種類の製造に従事し、シエツ
フヒールドに於ては多く後者の種類に屬する物品を製造することなるが、兩
市に於ける給料の相違は、能く其製造品の性質に相合ふと稱せらる。

製造業に於ても、商業に於ても、若くは農業に於ても、前人未拓の新方面に着手
するは、是れ一種の投機にして、其企劃者は是によりて巨利を博するの希望を
有す。固より時としては莫大の利益を得ることありと雖も、時としては全く反
對の結果を奏することなきにあらず。何れにしても其地方にあり來れる通常
の業務と同一率の比例を保つべきにあらず。其企劃の成就するや、最初の間は
非常の利益を收得するを常とすれども、漸く世に知れ渡るに及びては、諸方に
競争を生じ、遂に他の業務と同一の水平に引下げらるゝを常とす。

(二) 異種の業務間に於ける、労働と資本の全利害を平均する作用は、其業務の

通常即ち自然の情態にある場合に限り行はるゝものなりとす。

殆んど凡ての労働に對する需要は、時としては平常よりも大に、時としては平
常よりも小に、常に其平均を保つこと能はず。其需要の大なるに當つては、労働
の利便は平均點の上にある、其需要の小なるに當つては、遙かに其以下に降ら
ざるべからず。農業的労働に對する需要は、草刈時及び收穫時に於て、最も多く、
隨て其需要と共に給料の額は増加するなり。戰時四、五萬の水夫が商船より引
揚げられて、軍に従ふに當りては、商船に乗込むべき水夫の需要急に増加し、隨
て其給料は一ヶ月貳磅八志より五磅に暴騰するが如きこと珍らしからず。是
に反し、衰運に向ひつゝある製造業にありては、其労働者の多くは、解雇せられ
んよりは寧ろ相當以下の低給に満足するなり。

資本より生ずる利益は、其資本の使用によりて産出されたる物品の代價に隨
て變動す。物品の代價が普通相場以上に騰貴する時は、少くとも其物品を市場
に持ち來したる資本の或部分に對する利益は増加すれども、是に反して普通

相場以下に下落する時は、其利益も亦た低減せざるべからず。あらゆる物品の代價は多少の變動を免かれざれども、而かも或者は其變動甚だしく、或者は甚しからざるの差あり。人工に依りて製作さるゝ凡ての物品に於ては、其年々の産出額は、年々の消費高に出來得る限り接近すべく、斯くて年々是が製産に使用さるゝ勞力と資本の分量は、其年々の需要高によりて支配さるゝなり。前既に説けるが如く、或業務に於ては同一の勞力と資本を使用すれば、常に同一若くは同一に近き製産額を得べし。是を例すれば、麻布若くは毛布の製織に於て、同一數の勞働者を使用すれば、毎年畧同額の製産を得べし。故に斯る物品の代價に變動を生ずるは、不時の出來事によりて俄かに其需要を増加するに由るものなりとす。國葬の場合には、黒布の需要を増加し、隨て其代價騰貴すれども、普通の麻布毛布等に就ては、斯の如き出來事に際會すること稀なるが故に、其代價も亦變動を受くること少きなり。然れども、或種の産業に至りては、同一分量の勞力と資本とを使用するも、其産出する所は決して同一なること能はず。

例へば穀物、葡萄酒、砂糖、煙草、ハツブス、麥酒の原料の如きは同一の資本と勞力を使用するも、年々の産額は決して同一なること能はず。故に斯の如き物品の代價は、需要の變化に隨て變動するのみならず、産出額の多少によりて變動するが故に、其騰落常に測るべからざるものあり。されば斯る物品の賣買に従事する商人の利益も亦た物價の變動に従て變動すべき筈なり。彼の投機商なるものは常に主として斯の如き物品を取扱ふなり。彼等は其物品の騰貴すべしと見込む時には是を買ひ占め、下落すべしと思ふ時には是を賣放つなり。

(三) 異なる業務間に於ける勞働と資本との利と不利とを平均する作用は、其業務が是に従事する人に取りて唯一の主要の職業なる場合に於て而已起り得べし。

茲に一人あり、或職業に依りて生活すれども、其職業は彼れの全時間を占領するに至らず。而して彼は其餘暇を以て他の業務に従事することを希望すとせんに、此場合に於て彼は世間普通の相場以下の給料に甘んずるを得べし……

此種の勞力によりて製産されたる物品は又通常以下の代價にて市場に現はるゝことあり。蘇格蘭の多くの地方に於ては手編の履下の他の地方に於ける器械製の履下よりも廉價に製造さるゝことあり。是れ他の業務に由りて其生活費の主要部分を得る婢僕若くは勞働者に由りて製作さるゝが故なりとす。富裕の國に於ては其市場の範圍廣潤なるが故に、何の職業に従事するものも、其全時間を是に提供して尙不足あるも、決して餘暇あることなかるべし。一の職業によりて生活する者が同時に他の業務に従事して多少の收入を得ると云ふが如きは、多く貧國に於て見るの實例なりとす。……

第二、歐洲各國の政策より生ぜる不同。

歐洲各國の政策此點に於て完全なる自由を與へざるがために、多くの不同を生ず而して是れ第一の事情に比すれば更に重大なるものなりとす。其不同の結果を生ずるは、左の三箇の事情に原由す。(一)自由に放任すれば、多くの競争者を生ずべき場合に、法律に依りて、或種の産業の競争者を小數に限れ

ること。(二)是に反して或他の産業に於ては、人爲によりて、自然に放任する場合よりも多くの競争者を生せしむること。(三)一地方より他の地方に、又た一の業務より他の業務に資本と勞働の流通移轉することを妨ぐることを等なりとす。(一)歐洲各國政府の政策は、或種の産業に於て、其競争者の數を減ずることにより、各種の業務間に於ける勞働と資本の地位情態に非常の相違を來さしむるなり。

此目的を達せんがために、主として用ゐらるゝ方法は、或組合に特權を附與することとなりとす。

或種の職業組合に對して特權を附與することは、其組合の存在せる地方に於て必ず組合以外のものゝ競争を制限するの結果となるなり。而して通常此組合に入るの權は、其市内に於て適當の資格を有する主人の下に徒弟として事ふる事によつて得らるゝものとす。而して其組合の規約には、一主人の使用し得べき徒弟の數を制限することあり。又た大抵の場合に於ては、徒弟の年期を

規定するを常とす。其目的たるや、自然に放任する時は競争者の数の多きに堪えざるを以て、是を少数に制限するにあり。徒弟數の制限は直接に其目的を達し、其年期を長ふするは其教育費を多からしめ、間接に其目的を達する所以なりとす。……

世に徒弟法と稱せらるゝエリザベース女王の法律第五號によりて、徒弟として少くとも七年の年期を終へたるものにあらざれば、其當時英國に行はれたる如何なる職業、技術若くは秘傳をも行ふことを得ずと規定し、是迄各組合の細則として存したるものを、全英國の市府に行はるゝ凡ての職業に關する公法となせり。其法文の言語より云へば、全く普遍的にして、市府と田舎の區別なく一般に行はるべきに似たれども、解釋の方法によりて、實際に於ては市府に而已限定することゝなれり。蓋し田舎に於ては、技術を有する人間に缺乏せるを以て、其地方民の便宜上、七年の徒弟年期を終へざるも、各種の業務に従事するを妨げずとしたるなり。

且又法文の言語を嚴格に解釋することにより、エリザベース女王の該法律の制定せられし以前に存在せし職業にのみ適用し、其以後に起りたる職業には是を適用せざることゝせり。……マンチエスター、バーミンガム、ウォルヴハムトン等に於ける製造業の多くは此理由に依り、該法律の範圍外に置かれたり。……

人が其勞働によりて得る所の財産は、他の凡ての財産の基本にして、最も神聖犯すべからざるものなり。而して貧民の財産は、其手腕の強健と熟練とに在て存す。されば他人を害することなくして、彼れが自から適當と信する所に其力量と熟練とを使用するを妨ぐるは、此神聖なる財産を犯すものなりと云はざるべからず。又勞働者彼自身及び是を僱使せんとするものゝ自由を束縛するものなりと云はざるべからず。即ち勞働者に對しては彼れが適當と信する所に働くことを妨げ、僱主に對しては彼れが適當と信する人を僱使することを妨ぐるなり。勞働者の僱使すべきと否とを決するは、直接に其利害の衝に當る

僱主の判断に任せて可なり。立法者が是に干渉するは壓制なると同時に餘計の世話なりと云はざるべからず。

法律を以て徒弟の年期を長くしたりとて劣等品の市場に現はるゝを防ぐこと能はず。劣等品の市場に現はるゝは多くは詐偽の結果にして、伎倆の未熟なるが爲めにあらず。如何に徒弟の年期を長くしたりとて詐偽を防ぐ能はざるは云ふ迄もなきことなりとす。此目的のためには全く種類の異なる法律を要す。即ち板金に純金の銘を打ち、麻布若くは毛布に刻印を押したらん方、徒弟の規則を嚴重にするよりも遙かに大なる安心を購買者に與ふべきなり。購買者は是等の印章を熟覽すべし、其職工が七年の徒弟年期を終へたりや否やを穿鑿することあるべからざるなり。

長年期の徒弟制度は、決して青年をして其業務に勤勉ならしむる所以にあらず。仕事の出来高に依りて其賃錢を受くる職工は、直ちに勤惰の結果を自己の身上に持ち來すが故に、其業務に勤勉なるを常とすれども、徒弟に至ては直接

に利害を感ずることなきが故に、概して怠慢に流るゝを常とす……

徒弟をして長き年期を勤めしむるは全く無益の業なりと云はざるべからず。普通の職業よりも遙かに複雑なる懸時計及懐中時計の製作の如きすら、長年月の修業を要するが如き秘密を有せず……如何に器械を用ゆべきか、如何にして各種の機關を組立つべきかを充分に説明せらるれば、何人も數週間に不出でずして是を習得することを得べし。否、恐らく數日間にて充分ならん。他の普通の器械的職業に至ては何れも數日の鍊修にて事足るべし。尤も其技に熟鍊するの一事に至りては、普通の業務に於てすらも、多くの鍊習と經驗を要すべきは云ふを俟たず。然れども青年が始より職工として待遇せられ、其成就せる業務の多寡に隨て給料を得、一方に於ては未熟無經驗のために損傷することあるべき、其材料に對して、自ら支拂はしめば、彼等をして大に其業務に勵精することを得せしむべきなり。斯くて彼等の教育は最も効果あるものたるべく、又大に其手數と費用とを省くことを得べし。勿論斯くすれば舊來の主人

たるものが損失者たることは明かなり。彼は是迄其徒弟の勞働に依りて其懐に收め得たる給料の全部を失はざるを得ざるなり。否な其終局に至ては徒弟自らも或は損失者たるを免かれざらん。何となれば爾かく容易に習得し得べき業務に多くの競争者を招致し、徒弟等が一箇の職工として之に立たん時に其給料は現今に比して大に低廉なるべければなり。斯くして主人も、徒弟も、僱主も、職工も皆な損失者たらざるを得ざれども、是等の人々の手に依りて製作せらるゝ物品の價格下落するが故に、社會一般は是がために大に利する所あるべきなり。

凡ての組合及組合法の大部分の目的とする所は、即ち自由競争を制限することによりて物價の下落せんとするを防止し、隨て給料と利益の減少するを防止するにあり。古代に於ては、歐洲の多くの地方に於て、組合を設立せんと欲せば、其所在地都市組合の承認を経るのみにて別に帝王若くは官憲の許可を経るの必要なかりき。尤も英國に於ては國王の特許を要したりと雖も、其目的た

るや、不當の獨占に對して、一般の自由を保護せんとはあらで、只だ是によりて其臣民より金錢を徵收するの便を得んとするにありき。……組合及び組合法の直接の監督者は其組合所在地の都市組合にして、若し是に制裁を加ふるの必要ありとするも、其權限は國王より來らずして、其組合の屬する上級組合より來りたりき。

都市組合の政治は全く商人及技藝家の手中にありたれば、其各自の産業に屬する物品の市場に過剩を來さゝらんために、多くの競争者の侵入を防止するの制限を設けんことは、適切に各自の利害に大なる關係あることとして、深く注意を拂ふ所なりき。各種の職業に従事するもの皆な此目的の爲めに制限を置かんことを希望したれば、其希望の達せんことを條件として、他の職業に關係せるもの、同様の制限を設けんことに同意したりき。斯の如き制限の結果として、各階級に屬するもの何れも其市内に於ては、其制限なきに比すれば、多少の高價を以て各種の物品を購ふべく餘儀なくされたり。然れども是と同時に

に彼等も各自家の製品を同様の高價を以て賣拂ふことを得たるが故に、彼等は敢て是がために損失することなかりき。而して其田舎との取引に至りては、彼等は是がために非常の利益を得たり。各都市をして繁榮ならしむる主なる原因は全く此地方との取引にありき。

凡ての都市は其生活の必需品と工業の材料とを田舎に仰がざるべからず、而して都市が田舎に向て支拂をなすの方法二種あり。第一は田舎より得たる材料に加工して再び是を送り還へすなり。此場合に於ては、都市は材料の代價に労働賃金と、備主の利益とを加へたるものを田舎より徴収するなり。第二は他國の材料と精製品、並に同國内の遠隔の地方より其都市内に輸入されたる是等の物品を田舎に向て輸送することに由りて是をなす。此場合に於ては、其物品の原價に、水陸に於ける運送者の給料及び商人の利益を加へたるものを、田舎人をして拂はしむるなり。以上第一は其製造業によりて都市の利益する所に於て、第二は即ち内外貿易によりて得る所の利益なりとす。而して以上二種の

方法に由りて得らるゝ利益なるものは、全く労働賃金と、其企業者の利益より成立するものなりとす。故に凡て是等の労働賃金と利益とを増加せしむる傾向ある法律規則は、都市をして少量の労働を以て、田舎に於て多量の労働を以て生産せる物品を購買し得せしむる傾向を有す。されば斯の如き法律規則は、都市に住する商人、工藝家等のためには、非常の便利なれども、田舎に住する地主、農夫、労働者等に取りては、頗る不利益なりとす。若し自然に放任すれば、相互の間の利益は平均さるべき筈なれども、人為の作用に由りて、一方は利し、一方は損失を蒙むるなり。年々其社會の労働によりて生産さるゝ一切の富は、以上の異なる二階級の間配分さるゝものなるが、斯の如き人為の作用によりて、都市の住民は其當然の配當額よりも多くを受け、田舎の住民は其當然の所得額よりも少く得ることとなるなり。

都市が年々他より輸入さるゝ食料品及び材料の代價として、實際支出する所のものは、其都市より年々輸出さるゝ製造品其他の物品の分量なりとす。故に

其都市より他に輸出さるゝ物品が高價に賣却さるゝ程都市が他より購買する物品の代價は低廉となるなり。換言すれば都市の産業が受くる利益の大なる程、田舎の産業は不利益の地位に立つことゝなるなり。

歐洲の何處にても、都市に行はるゝ産業の地方に於けるよりも、利便の地位にあることは、別に面倒なる計算をなす迄もなく、最も單純なる觀察によりて是を證明することを得べし。歐洲の到る所に於て、都市的産業即ち商工業に於ては、小資本を以て莫大の富を作れる人の甚だ珍しからざるを發見すれども、農業によりて、小資本家が一躍して巨富を致したるの實例は極めて乏しく、前者の百に對して、後者は僅かに其一を有するに過ぎざるべし。依是觀是、都會に於ける産業は田舎の夫よりも、多くの収益を得、勞働賃金も、資本の利益も都會に於て、田舎よりも多くの所得を有すること明なりとす。然れども資本と勞働とは水の低きに就くが如く、有利の地を追ふて流動するものなるが故に、自然に田舎の地を去りて、都會に集中することゝなるなり。

都會の住民は一所に集合するが故に、容易に團結することを得るなり。是故に都會に於ては、極めて微細なる業務にても、組合を設けることあり。組合を設けざる場合に於ても、常に組合的精神行はれ、外來者を排斥し、徒弟を教ふることを喜ばず、同業者間に互に氣脈を通じ、相互の約諾によりて、法律規則の禁じ能はざる自由競争を阻止する等のことあるなり。殊に同業者の少數なる産業に於ては、斯の如き結合をなさんこと最も容易なりとす。羊毛の紡績者及び織夫の千人に對して、其刷毛者は僅かに六七人にて充分ならん。彼等は固く結合して徒弟を容れず、以て其職業を獨占するのみならず、其製造業の全部を彼等の手中に左右し、以て其勞働賃金を騰貴せしむることをなすなり。

是に反して田舎にあるものは、互に相隔離するが故に、團結すること容易ならず。彼等は組合を設立せざるのみならず、又た組合的精神を缺如せり。彼等は田舎の最大産業なる農業を學ぶに徒弟制度の必要なることを想像せず。されども美術及び學術的職業を除く外、農業の如く多くの智識と經驗を要する職

業はあらざるなり……

歐洲に於て、都市の産業をして田舎の産業に勝りて、利便の地位に立たしむるものは、只だ組合法のみならず、其他にも種々の法律ありて、同様の傾向を助長しつゝあり。彼の外國輸入品に對して重税を課するが如きことも亦た其一例なりとす。組合法は都市の産業家をして、内國人の競争を恐るゝことなく、其代價を騰貴することを得しむるが如く、海關税は即ち外國人の競争を防拒する所以なりとす。而して是等二種の法律によりて騰貴せしめられたる代價は遂に斯の如き獨占に反對することなき地主、農夫及田舎の労働者によりて支拂はるゝものとす。彼等は概して團結的の傾向を有せず、又た是に適せざるなり。而して商人製造家等は曲辨と強辯とを以て、彼等を説服し、彼等をして容易に社會の一部分の利益は即ち其全部の利益なりと云ふことに承認せしむるなり。英國に於ては、都市の産業の、田舎の産業に比して利益多かりしこと以前に於

ては遙かに今日に勝れり。前世紀及現世紀の初に比すれば、現今に於ては、田舎労働者の給料は製造所の労働賃金に近づき、農業に使用されたる資本の利益は、製造商業に使用されたる資本の利益と大差なきに至れり。而して是れ都市産業の上に與へられたる特典よりして徐々に生じ來る必然の結果に外ならず。即ち都會に於て貯蓄せられたる資本の額は漸次増大して、其特種の産業に使用するのみにては、復た以前の如く豊かなる利益を得ること能はず。産業も亦諸他の事物の如く、其限度を有す。資本の増加は、勢ひ競争を増加し、遂に其利益を低減せしむるに止まず。都會に於て其利益を低減せられたる資本は、田舎に流れ行き、其處に農業的労働者の新需要を作り、其必然の結果として労働賃金の昂騰を促すとす。斯くて都市に於て蓄積せられたる資本は、漸くにして全地の上に普及し、農業のために使用さるゝことゝなるなり。歐洲到る所に於て其田舎地方の開発は、斯くして都市に蓄積されたる資本に負ふこと最も多きことに就ては、是より説示する所あるべし。又た是と同時に或國々に於ては、此

順序に由りて相當の繁榮の域に達したりと雖も、種々の出來事のために、其進歩は極めて遅緩不確實にして、屢中止妨害され、時としては全く自然の順序に反對することあるを示さんとす……

同業者の一所に集合することおれば、假令其目的は決樂親睦のためなりとするも、談話は常に公共の利益に反對する企劃、或は値上げの方法に及ばざること稀なり、而して實行し得べく、正義と自由の主義に戻らざる方法を以て斯の如き集會を禁せんことは到底望み得べきことにあらず。夫れ然り、法律は斯の如き集會を禁ずること能はずと雖も、而かも決して斯の如き集會に便利を與へ、若くは其必要を感せしむるが如きことをなすべきにあらず。

一の市内に於ける同職業者の住所姓名を公簿に登録せしむる規則の如きは、斯の如き集會に便利を與ふるものなりとす。斯る記録あるがために、彼等同業者は互に其住所姓名を詳かにすることを得るが故に、彼等が集會を催はすに非常の便利を得ることゝなるなり。

同業者が貧困疾病に陥るるに際して互に救濟し、其寡婦と孤兒とを扶養する等の目的のために、彼等自身に出金を賦課することを得せしむることも亦た彼等の集會を必要ならしむることとなるなり。

組合は固より斯の如き集會を必要ならしむるに止まらず、多數の行爲によりて全體を束縛するなり。組合なき場合に於ては、其同業者の凡ての承諾を経るにあらざれば、有効なる團結は爲し得べからず。若し其中に異論者を生ずる時は、其團結は維持し得べきにあらず。組合は多數決によりて、其規則を制定し、又は是に隨はざる者をば制裁することを得べし。是れ競争を制限せんがために、他の如何なる團結にも勝りて有効に且つ永續的なるものなりとす。

組合は同業者の情態を改善せんがために、必要の組織なりと云ふものありと雖も、是れ實に所謂れなきの言なり。職工等の上に有効なる訓練を與へんことは、是れ其得意の爲すべきことにして、職工自身の組合の爲し得る所にあらず。彼等をして正直勤勉ならしむるものは、其職を失はんとするの恐怖にして、排

他の組合は却て此制裁を弱むるものなりと云はざるべからず。何となれば組合ある場合には社會は常に一種特別の職工を使役すべく餘儀なくさるゝが故に、彼等は己が意の儘に振舞ふことを得なければなり。歐洲各國の政府が其政策に由り、或職業に關して、其競争者を少數に制限し、以て異種の職業間に於ける勞働と資本とをして、或は有利の地位にあらしめ、或は不利の地位にあらしめ、其間に大なる不同を來すは以上述べたるが如き次第に依るなり。

(二) 歐洲各國政府の政策は、或職業に關しては、自然に放任するよりも、多くの競争を惹起せしむることに依り、異種の職業間に於ける勞働と資本の地位に、以前と反對の種類なる不同を起さしむるなり。高等の職業に従事せんために、幾多の青年を教育せんことは最も必要のことと思惟せられ、時としては公共に由り、時としては私人の篤志者に由り、給費獎學金等の支給さるゝあり。是がために人為的に是等の職業に多くの人を吸引

するの結果となるなり。余の信する所に據れば、凡ての基督教國に於て、教役者の教育費の大部分は斯の如くにして支給され、全く自費を以て攻學に従事するものとは極めて少數なりとす。是故に永年月の間、多くの費用を投じて、困難なる教育を受けし者も夫れに相當する丈の報酬を得ること能はず。教會の如きは常に職業を求むる者を以て満たされ、其多くは受けたる教育に不相應の薄給に甘んずるを常とす。斯くして貧者の競争に依りて富者の報酬は奪ひ取らるゝこととなるなり。法律を以て勞働者の給料を規定する場合には、常に是を上進せしむることなくして、却て低下せしめんことを勉めたり。是に反して教會の威嚴のために、法律を以て「キユレート」英國教會に於て、牧師長の下にありて、教事に勤務する者の給料を引上げんと試み、各教區の牧師長をして、彼等自身が満足するより以上の給料を拂はしめんとしたることあり。何れの場合に於ても、法律は何等の効果を奏せず、「キユレート」の給料は依然として引上げらるゝことなく、

労働者の給料は立法者の希望する點に迄引下げらるゝことなし。何となれば「キユレート」等は其境遇の貧困なると、競争者の多きために、法定以下の給料に満足し、労働者に關しては、彼等を使用するに依りて利益を得んとする僭主の間に競争を生ずるが故に、自然に法定以上の給料を支拂ふに至るものとす。教會に對する厚き保護と、其他の宗教上の威嚴とは、其下級社會の憐むべき情態なるに關らず、能く教會の名譽を保持し、又た其業務に對する社會の尊敬は、其金錢上の報酬の足らざるを補ふことを得るなり。……

(三) 歐洲各國政府の政策により、労働と資本との一の職業より他の職業に、又た一の場所より他の場所に自由に轉移するを妨害するのために、異種の職業に使用されたる労働と資本との間に大なる不公平を生ずるに至ることあり。徒弟の制度は、同一地方に於ても、労働の一の職業より他の職業に自由に轉換するを妨げ、組合の排他的特權は同一職業にても、其勞力の一の場所より他の場所に轉移するを妨害するなり。

一の製造業に於ては、其労働者に高給を支拂ひつゝあるに反し、他の製造業に於ては、僅かに生活を支ふるに足る丈けより支拂ふ能はずと云ふが如きことは屢、是れあり。一は進歩的の情態にあるを以て、常に労働者に對する新需要あり。一は衰微しつゝあるを以て、日々労働者の過剩に苦みつゝあり。斯の如き二種の相異なる製造業は時としては、同一市内に、否時としては相接近して存在し、而して相互に些の助力をも與へ得ざることあり。徒弟の制度と、組合の排他的組織とは、實に斯の如き二箇の製造家をして互に相助くることを得ざらしむるなり。多くの製造業に於ては、或部分迄其爲す所大同小異なるが故に、斯の如き愚なる制限と束縛とさへなくば、労働者は容易に一の職業より他の職業に轉ずることを得べきなり。……

勞力の一の産業より他の産業に轉ずるを妨ぐることは、等しく資本の移轉をも妨害するなり。一の産業に使用され能ふ資本の額は、是に使用し得べき勞力に關係する所最も多し。然れども、組合法の資本の移轉を妨害することは、其勞

力の移轉を妨害するに比すれば甚だ多し。何處に於ても富有なる商人が或都市の組合内に於て營業するの特權を得んことは、貧職工が他の組合の下に於て勞働するの許可を得るに比すれば頗る容易なりとす。

組合法が勞力の自由移轉に妨害を與ふることは全歐洲に涉りて、普通の事實なれども、貧民法が同一の結果を與ふることは是れ英國に限れる特異の現象なりとす。蓋し貧民法は貧民の屬する教區より他に移住することを困難ならしめ、時としては自己所屬の教區以外に於て業務に従事することを禁せらるることすら珍らしからず、組合法は只だ職工と製造家の自由移轉を妨害するに過ぎざれども、貧民法は居住の自由を妨害するが故に、普通勞働者の自由移轉をも困難ならしむるの結果を生ずるなり。

英國に於て距離相違からざる場所に於て勞働賃金に非常の相違あるは、居住法によりて、貧民が免許狀(彼れの居住權を證明するもの、戶籍謄本の類なり)なしに一の教區より他の教區に行きて其職業に従事することを許さざるがた

めなるべしと思はる。尤も健全勤勉なる獨身者ならんには多少の不便を忍べば、證明書なしに住居し難きにあらずと雖も、妻子眷族を有する者ならんには、最も多くの教區に於ては必ず他に移轉せしめらるべく、獨身者の妻帯したる場合亦た然り。されば一の教區に於ては勞働者の缺乏に苦み、他の教區に於ては其過剩に困難するも、互に相救濟すること能はず。蘇格蘭土其他、居住の自由を制限せられざる國々に於ては、自然の作用に依りて、有無相通するに至るを常とす。斯の如き國々に於ては、大都會の附近若くは臨時多數の勞働者を要する地方に於て、時として勞働賃金の少しく騰貴することあれども、其中心點を離るゝに隨て低減し、遂には全國の平均點に歸着し英國に於けるが如く、僅かに相隔たれる兩地方に於て、非常の高下を現はすが如きことあるなし。英國に於て貧民が一の教區より他の教區に其人爲的の境域を超へて進むは、他の諸國に於て、勞働賃金の相違を對する、高山大海の如き自然の障害物を超ゆるよりも困難なるものあり。

何等の犯罪もなきに人を其自ら住居せんと欲する教區より移轉せしむるは是れ明かに自由正義に背戾するの行爲なりと云はざるべからず。されども最も其自由を尊重すると稱せらるゝ英國の平民も、諸他の國民と等しく、其自由なるものが何に由りて成立するかを充分に了解せず。既に一世紀以上に渉る長年月の間、此不法壓制なる法律の下にありて、敢て救治の策を講せんともせざりしなり。尤も時としては居住法の公益に害あることを論ずる思想家のなきにはあらず。一般の輿論は寧ろ靜謐にして、斯不法の法律を撤廢せんがために努力奮闘すると云ふが如きことなかりしなり。思ふに今日英國に於て四十歳以上の貧民にして、此不法壓制なる法律のために苦痛を嘗めたる經驗なきものはあらずべきなり。

余は此一章のために思はず、長論辯を費やせり、終りに蒞みて余の一言せんと欲するは、古代に於ては、一般に給料を規定するの習慣あり。始めは全國に施行せらるべき一般法により、後には各地方に於ける平和裁判所の特別命令に由

りて、是を制限したれども、今は既に過去の夢となり了れること是なり……勿論今日と雖も、或特種の地方に於て、特種の職業のために給料を規定せんとすることなきにあらず。例へばジョージ三世の法律第八號に於て、倫敦と其周圍五哩以内の地に於て、國葬の場合の外、一日二志七片半より多く支拂ふ裁縫師も、是を受けたる職工も共に法律の制裁を免るべからずと規定せり。傭主と労働者間に何等かの規定の設けらるゝことありとせば、立法者の相談相手となるものは必ず傭主の側に立つものなり。故に其法律規定の労働者の利益たる場合には常に正義公平を失はざれども、傭主側の利益たる場合には決して公平なりと云ふべからず。例へば諸種の職業に於て、傭主等をして其被傭人に現金にて支拂はしめ、物品を以て支拂ふことを禁ずるの法律あり。是れ正義公平の所置にして、傭主等に取りて決して不當の命令なりと云ふべからず。而して彼等は往々物品にて其賃錢に相當するものを支拂ふべしと稱して、實際其實價以下のものを支拂ふことあるが故に、斯の如き規定は労働者に取りては